

元老院會議筆記 明治十六年十二月二十二日

禁傍聽

○第四百十八號議案 大藏省證券條例制定ノ儀 第一讀會

議長 東久世通禧

出席議員

四番	野村	素介
七番	鍋島	直彬
八番	伊丹	重賢
十番	大給	恒
十一番	榎村	正直
十四番	稅所	篤
十五番	柴原	和

十八番	西	周
十九番	上杉	茂憲
二十番	大鳥	圭介
二十一番	黒田	清綱
二十五番	鍋島	幹
二十七番	河田	景與
二十八番	大久保	一翁
二十九番	渡邊	清
三十番	伊集院	兼寛
三十一番	林	友幸
三十二番	三浦	安

三十五番	本田	親雄
三十六番	神田	孝平
三十七番	田中	芳男
三十八番	楠本	正隆
三十九番	津田	眞道
四十番	渡邊	洪基
四十一番	井田	讓
四十二番	官本	小一
四十三番	田邊	太一

内閣委員 一番外 参事院議官 渡邊 昇
 二番外 参事院議官補 岩崎小二郎

午前第十時十分開場

○議長 本日ハ第四百十八號議案第一讀會ヲ開ク但シ條項浩澁ナルヲ以テ布告案ノミヲ朗讀セシメ他ハ之ヲ省ク

書記官 森山茂 朗讀

布告案

大藏省證券條例別紙ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事

左ノ案ハ朗讀ヲ爲ササリシモ參考ニ便センカ爲メ此ニ掲載ス

大藏省證券條例

第一條 大藏省證券ハ出納上一時使用ノ爲メ大藏省ヨリ發行スルモノトス

第二條 大藏省證券ハ無記名利付定期拂ニシテ其發行シタル年度ノ歲入ヲ以テ仕拂ヲ爲スモノトス

第三條 大藏省證券ノ發行金額及利子金額ハ大藏卿之ヲ豫定シ太政大臣ノ裁可ヲ受クヘシ

第四條 大藏省證券ハ百圓五百圓千圓五千圓壹萬圓ノ五種ニ別チ其仕拂期限ハ三ヶ月六ヶ月九ヶ月トス但其仕拂期日ハ各證券面ニ記載スヘシ

第五條 大藏省證券ハ何人ニテモ授受賣買スルヲ得

第六條 大藏省證券ノ仕拂及ヒ引換ニ關スル事務ハ日本銀行ニ於テ取扱ハシムヘシ

第七條 大藏省證券ノ所持人ハ其仕拂ノ期日ニ至リ日本銀行本支

店又ハ代理店ニ於テ其仕拂ヲ請求スヘシ但其仕拂ハ通貨ヲ以テスルモノトス

第八條 大藏省證券ハ其仕拂期日ヨリ起算シ滿六ヶ月間ハ之ヲ仕拂フヘシ滿六ヶ月ヲ過ルトキハ一切仕拂ヲ爲サルモノトス但仕拂期日後ハ利子ヲ付セサルモノトス

第九條 大藏省證券汚染又ハ毀損セシトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ差出シ證券ノ引換ヲ請フヘシ但其券面金額記號番號及ヒ主要ノ印部ヲ検査シ其真正タルヲ證認シ得ヘキ者ニアラサレハ引換サルヘシ

第十條 大藏省證券ノ所持人其證券ヲ亡失セシトキハ其事由並ニ券面ノ金額仕拂期日記號番號及ヒ所有セシトキノ手續ヲ詳記シ

日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經テ大藏省ニ届出ヘシ大藏卿ハ其證券ノ授受賣買引換及ヒ仕拂ヲ差止ムヘキ旨ヲ告示スルモノトス但發見シタルトキハ同様ノ手續ヲ以テ届出ヘシ

第十一條 亡失セシ證券ハ之ヲ發見セサルモ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ満足スル保證人二人以上ノ證明アルニ於テハ其元利金額ヲ仕拂フヘシ

第十二條 大藏省證券ヲ偽造若クハ變造シテ行使シタルモノハ刑法第二百四條第二項ニ依テ處斷ス

○外一番渡邊

昇 本案ハ各條ヲ通讀セハ意義瞭然タレトモ之ヲ制定發

布セントスル大體ノ理由ヲ陳セン夫レ我大藏省ノ會計ノ本タル所謂入ルヲ量リテ出ルヲ爲スノ制ナレトモ諸稅ノ收納及ヒ支出期限

ノ平衡ヲ得サルカ爲メニ或時ハ國庫ニ剩餘アリテ徒ニ許多ノ資金ヲ堆積シ或時ハ大ニ空乏ヲ告ルコト有リ其最モ空乏ヲ告ルノ時期ヲ舉レハ秋冬ノ交ヲ以テ甚シトス蓋シ秋冬ノ交ハ收入ノ金額限リアルニ拘ハラズ多額ノ支出ヲ要スルノ時期ナレハナリ然ルニ從來此多額ノ支出ヲ要スルニ方リ國庫空乏ナルモ支出ヲ半途ニ止ムルヲ得サルニ依リ毎ニ準備金ヲ以テ之ヲ流用セリ但シ準備金ハ此等ノ不足ヲ流用ス可キ性質ノ者ニ非ス今ヤ歲出入ノ豫算モ固定シ會計上ノ目的モ確立シタレハ此ニ歐洲各國ニ行ハルル所ノ方法ヲ取捨折衷シテ證券ヲ發行シ以テ國庫支出ニ障礙ナカラシメント欲スルナリ且本件ハ急施ヲ要スルヲ以テ本日直ニ第二讀第三讀會ヲモ併テ開カンコトヲ請求ス

出席

三番

箕作 麟祥

○四十番 渡邊 洪基

内閣委員ノ辨明ヲ俟タス至當ノ法案ニシテ實ニ美舉

ト謂フモ可ナラン夫レ從前會計法ハ獨リ大藏省ノ不便アルノミナラス國家經濟上ニモ大ニ其影響ヲ及ホス者トス然ルニ本案ヲ發布スルニ逢ハハ必スヤ官民共ニ其便益ヲ得ルハ少小ナラスト信ス且國庫ノ出納モ今ヨリ明白ニ知ルヲ得テ吾人ヲシテ安慮セシム可キナリ因テ本案ハ速ニ議了シ以テ發布スルヲ要ス

○八番 伊丹 重賢

本案ハ必要ナルモノト信スルヲ以テ大意ヲ賛成スルモ

聊カ質問ヲ要スル者アリ第八條ニ證券ハ其仕拂期日ヨリ起算シ滿六ヶ月間ハ之ヲ仕拂ヒ此期限ヲ過レハ仕拂ヲ爲サスト有リテ其六ヶ月ノ期限ハ彼ノ爲替手形ト異ナラサルモ爲替手形約束手形條例

第二十七條ニハ定式ノ祝日祭日或ハ慣習ノ休業日ニ當ル時ハ其翌日之ヲ請求ス可シト掲ケテ以テ授受ノ日期ヲ明示ス而シテ本案ハ之ヲ載セス其之ヲ載セサルモノハ別ニ據ル所アルカ抑モ爲替手形ト同一ニセントスル歟又第七條第十一條等ニ代理店ト掲クルモ日本銀行條例ニハ即チ出張所ト有リテ代理店ト爲サス蓋シ近今新タニ此名稱ヲ設ケタルニアル歟又第十二條ニ若クハ變造シテ行使シタルモノハ刑法第二百四條第二項ニ依テ處斷ストアルモ刑法ニハ増減變換シテ行使シタル者ト爲シ變造トハ書セス本案ノ變造ト爲セルハ別ニ旨意アリテ然ル歟敢テ答辨ヲ請フ

○外番一番昇渡邊

八番ニ答ヘン第八條ハ讀テ字ノ如ク滿六ヶ月ヲ限リ月ヲ以テ算シ日ヲ以テ算セサルナリ但シ今ヨリ豫言シ能ハサルカ

如キモ此證券ハ爲替手形ト異ニシテ多クハ銀行及ヒ巨商ノ手ニ留マリ滿天下ニ流布シテ各自ニ所有スルヲ得サルナラン且銀行ノ休業日ハ一般ニ定例アルヲ以テ休業日ニ方リ支拂ヲ請求スルカ如キコトハ萬アル可ラサルヲ信ス故ニ本案ハ單ニ滿六ヶ月ト爲セシナリ第九條ノ代理店ハ日本銀行條例ニハ此名稱アラサルモ即チ日本銀行ノ代理店ニ外ナラス若シ代理店ニシテ不可ナリトセハ或ハ出張所トナスモ妨ケナカラン第十二條變造ノ文字ハ證券ノ字面等ヲ種種ニ變造シテ使用スルヲ指ス別ニ意義アルニ非サルナリ

○伊丹八番重賢

本官モ讀テ字ノ如クナルヲ以テ質問ヲ要セシナリ番外一番八月ヲ以テ算シ日ヲ以テ算セスト云ルモ本官ハ日ヲ以テ算スルモノト信ス蓋シ刑法ノ如キモ一月ヲ三十日ト爲シ日ヲ以テ算ス

レハナリ然レハ則チ最終期日ノ祝日祭日等ニ當リ授受スルヲ得サルヨリ或ハ紛議ヲ生スルナキヲ保タス故ニ本官ハ尙ホ熟考ヲ加ヘ第二讀會ニ方リテ修正說ヲ提出スルモ知ル可ラス

出席

十三番

西村 貞陽

○三十八番 楠本正隆 本案ハ紙幣發行ト異ニシテ出納上ニ便益ヲ與フルモノナルヲ以テ之ヲ是認ス元來此便法ヲ缺クカ爲メ租稅ノ納期ニモ關係ヲ及ホシ曩ニ地租納期ニ一箇月ノ猶豫ヲ與フルノ法案ヲ議スルニ方リテ陳辨セル如ク本官ノ積年ノ持論タル地方畫一ノ納期ノ不可ナルヲ知了スルモ國庫ノ支出ニ支障アルヲ以テ已ムヲ得ス該案ヲ可トスルニ從ヘリ當時各議官ニ於テモ各地方ノ氣候ニ應シ納期ヲ區別セント討議セシモ前陳ノ已ムヲ得サル支障アルカ爲メ

ニ遂ニ其說ハ行ハレサリシ然ルニ本案ヲ實施スルニ會ハハ大ニ金融ノ途ヲ開キ本官等曾テ苦慮スル所ノ地租ノ納期モ亦自然ニ區別スルヲ得ヘク且國家經濟ノ目的ヲ達スルヲ得ン因テ簡單ニ賛成ノ意ヲ表スルコト爾リ

○十五番 柴原和 三十八番ト同一ノ意ヲ以テ本案ヲ賛成ス夫レ地租納

期ヲ畫一ニスルノ不是ナルハ第四百十號議案ヲ議スルニ方リテ本官モ亦痛論セシ如ク今此法律ヲ發シ國庫ノ支出ニ便宜ヲ得ルニ至ラハ彼ノ納期モ亦各地秋穫ノ時期ニ隨ヒ漸次之ヲ改定スルヲ得ヘキナリ茲ニ聊カ内閣委員ニ質サント要スルモノ有リ即チ第八條滿六ヶ月ノ仕拂期限是レナリ本案ノ如クンハ仕拂期日ヨリ六ヶ月ヲ經過セハ假令之ヲ所有スルモ其證券ハ即チ零紙ニ屬セン若シ各府

縣到ル處ニ日本銀行支店又ハ代理店ノ設ケアルトキハ支障ナカル
可キモ然ラスシテ唯タ東京大坂等ノ如キ都下ノミナリトセハ此期
限ニテハ必ス支障アル可キヲ憂フ知ラス現時各府縣ニ該銀行支店
及ヒ代理店ハ幾千アリヤ肯テ明答ヲ乞フ

○番二番 岩崎小
外 二郎

日本銀行支店ハ目今大坂ニ一箇所ナルモ代理店ハ
每府縣ニ二三箇所ノ設ケ無キハ希ナリ蓋シ其代理店ハ從來地方稅
等ノ出納ヲ命シ置キタル爲換方ト稱セシ者ヲ以テ之ニ充テリ然ル
ニ六箇月ノ仕拂期限ニ關シ望慮アルモ此證券タル第二條ニ明記セ
ル如ク年度ノ歲入ヲ以テ仕拂ヲ爲ス者ニシテ其券面ノ金額モ亦百
圓乃至一萬圓ノ者ナレハ決シテ仕拂期限ニ後ルル等ノ虞ナキヲ信
ス況ヤ該券ハ概ネ利ヲ見ルニ敏捷ナル商人輩ノ手ニ留マルヲ以テ

其六箇月間無利息ニシテ空シク所有スル者アラサルヲヤ且前年太
政官札引換ノ時ヲ以テ之ヲ證スルモ當時拾圓札ノ期限ニ後レシ者
ナカリシト云リ或ハ一圓以下ノ小札ノ如キハ適マ他物ニ埋没シテ
期限ニ後レシ者アリシモ此亦金満家ニ非サレハ安ソ斯ク緩漫ニ付
スル有ンヤ然リ而モ此證券ハ金額彼ノ比ニ非サルヲ以テ其所有者
ハ二三月ヲ出スシテ必ス仕拂ヲ求ムルヤ疑ヲ容レサルナリ

○二十番 大鳥
圭介

本案ハ美舉トシテ稱讚スルニ足ラサルモ歐洲各國ニ
於テハ既ニ其例アルノミナラス國庫支出ノ便法ナルヲ以テ之ヲ贊
成シ而シテ少ク内閣委員ニ質サントスル者アリ第二條ニ大藏省證
券ハ無記名利付云云ト有リテ利子ノ額ヲ示サス是レ果シテ幾許ト
爲ス歟又諸官廳ニ交付シタル證券ノ利子ハ如何スル歟

○番一渡邊

利子ノ額ハ今之ヲ豫言スル能ハス蓋シ其利子タル方

今ノ如ク金融閉塞ノ時ト之ニ反シテ活潑ニ流通スル時トハ自カラ
其差アルヲ免レス是レ故ヲニ本案ニ明示セサル所以ナリ然リ而モ
此證券ハ特リ内國人ノミナラス外國人ト雖モ授受賣買スルヲ得ル
者ナレハ大藏卿ハ時機ニ應シテ其宜キヲ計リ以テ之ヲ定メント爲
ルニ在リ然レトモ到底高厚ナル利子ハ付セサル可キヲ信ス又諸官
廳ニ交付セル證券ノ利子如何ノ間アルモ此證券ハ諸官廳ニ交付セ
ス想フニ本券ノ利子ヲ領收スル者ハ其誰タルヲ問ハサルモ概ネ三
井及其他ノ銀行若クハ富豪者ニ止マルト謂フモ可ナランカ

○三番箕作 麟祥

本案ヲ是認ス曩ニ日本銀行ノ創立以來既ニ幾月日ヲ經
過セシヲ以テ本案ノ制定ヲ要スルニ至リタルヤ言ヲ俟タス某議官

ノ言ノ如ク本案ヲ觀テ以テ美舉トハ稱揚シ難キモ即チ良法ト謂テ
可ナラン蓋シ國庫ノ支出ニ便益ヲ與フルノミナラス漸次地租納期
等モ其宜シキヲ制スルニ至リ從ツテ人民モ便益ヲ得ヘケレハナリ
抑モ此法タル英吉利ハ二百年前佛蘭西ハ千八百二十四年代ヨリ已
ニ此設ケアリ本案ハ其何レノ法ニ依準セシヤハ詳知セサレトモ或
ハ佛蘭西ニ模倣シタルニハ非サル耶番外一番モ陳述セル如ク我邦
目下ノ景況タル金融ノ途日ニ梗塞シ爲メニ資金餘裕アル者モ徒ニ
之ヲ倉庫ニ堆積シテ流用スルヲ得ス彼ノ公債證書ノ時價騰貴セル
ハ蓋シ此原由ニ外ナラサル可シ故ニ若シ此證券ノ發行ニ逢ハハ資
金ニ餘裕アル者ハ徒ニ庫中ニ堆積センヨリ寧ロ幾分ノ利子ヲ得ル
ニ如カストシ之ヲ購買スルニ至ルヤ推知ス可シ第三條ニ證券ノ發

行額ハ大藏卿之ヲ豫定シト云ルヲ以テ若シ過分ニ之ヲ發行スルカ
如キハ或ハ弊害ヲ來ス無キヲ保タサルモ第二條ニ年度ノ歲入ヲ以
テ仕拂ヲ爲スト掲ケ第四條ニ仕拂期限ハ三ヶ月乃至九ヶ月ト定メ
タルヲ以テ良シヤ其發行金額ヲ明載セサルモ敢テ罣慮ヲ要セサラ
ン且歐洲各國ノ例ニ由レハ法律ヲ以テ其額ヲ定ムルモ本邦今日ノ
情況ニ在テハ未タ其時機ニ非サル可シ夫レ佛蘭西ノ如キ既ニ其金
額ニ制限アルニ拘ハラズ制限外ニ之ヲ發行スルコトアリ原語デッ
ト、フロツタント即チ浮借ト稱スル是レナリ彼仕拂期限ニ至テハ各
國種種ノ區別アルモ内閣委員モ陳セシ如ク見ニ百圓以上ノ證券ナ
レハ其引換ヲ忘失シテ期限ヲ誤ル如キ者ハ恐ラク絶無ト言テ可ナ
ラン且本案ハ今回新設ニ係ルヲ以テ是等モ爲替手形約束手形ノ法

ニ倣ヒ六ヶ月ト定メテ可ナラン若シ夫實施上支吾ノ生スル有ラハ
他日之ヲ改メテ可ナリ

○三十二番 三浦安

時機適當ノ法案ナルヲ以テ之ヲ是認ス蓋シ往日紙
幣低落ノ際ノ如キニ在テハ假令日本銀行ノ設立アルモ遽ニ之ヲ發
行スルヲ得サレトモ頃來大ニ紙幣ノ價位ヲ恢復シ日本銀行ノ準備
モ亦整頓セシト信スルカ故ニ本案發布ノ時機既ニ到レリト云テ可
ナラン然レトモ第三條ノ證券發行ノ金額ニ制限ヲ付セスシテ大藏
卿之ヲ豫定スルノ一事ニ於テハ少ク說ナキ能ハス但シ第二條ニ年
度ノ歲入ヲ以テ仕拂フトアレハ例ヘハ歲入七千萬圓額ニ超過シテ
之ヲ發行スルヲ得サル可キモ其七千萬圓ノ歲入ニ對シ即チ七千萬
圓ノ證券ヲ發行スルハ得テ爲シ難キニ非ス今日我大藏卿ハ歲入ノ

金額ニ超過シ若クハ假令歳入内ニ於テモ無要ノ證券ヲ多ク發行スルカ如キコト無キハ固ヨリ確信シテ疑フ所ナキモ其發行ノ金額ニ制限ヲ付セサルトキハ後年ニ至リ或ハ財計ヲ誤ルノ虞ナキ能ハス因テ之ヲ歳入三分一或ハ二分一ト定メテ明記スルノ優レルニ如カス第八條仕拂期限ノ項ハ各位ノ説ナキニ非サルモ本官ハ六ヶ月ニシテ不可ナキノミナラス尙ホ之ヲ短縮スルモ可ナリト信ス蓋シ此證券ハ國庫ノ支出ニ關シ一時便利ノ爲メニ發行スル者ナレハ若シ之ヲ延テ一年二年ノ長キニ亘ルトキハ却テ支障ヲ生ス可レハナリ

○三十六番神田孝平 證券ノ發行ノ金額ニ就テハ各位モ已ニ論スル如ク本案ヲ以テ之ヲ觀レハ其發行額ハ如何ナル巨多ノ點ニ升ルカ然ラサルカラ知ルニ由ナシ若シ過多ノ證券ヲ發行シテ其年度ノ仕拂ニ

剩餘ヲ生スルカ如キコトアラハ順次翌年度ニ操越シ遂ニ巨額ニ至ルナキヲ保セス某議官モ言ル如ク今ヤ大藏卿其人ノ在ル有リテ敢テ里慮スルニ足ラサルモ唯其人ニノミ是レ憑リ此法律ヲ以テ他日モ猶ホ今日ノ如ク信用ヲ置ク能ハサラン且法律ハ有事ノ日ニ臨ンテ制定センヨリ寧ロ無事ノ時ニ於テスルノ善キニ如カス故ニ第二讀會ニハ發行ノ金額ニ制限ヲ付スルノ説ノ出ルニ會ハハ之ニ同意セント欲ス先ツ大意賛成ノ意ヲ述フ

○外番渡邊昇 各位ノ發言ハ質問ニ非サレトモ更ニ本案ノ精神ノ在ル所ヲ辨明シ以テ參考ニ供セントス抑モ證券發行金額ノ制限ニ關シテハ内閣ニ於テモ既ニ一二ノ議論ヲ生シ反覆討究シテ遂ニ本案ノ如ク大藏卿之ヲ豫定シ大臣ノ裁可ヲ受ルコトニ決セリ蓋シ政府

見ニ會計検査院ノ設ケ有リ加之其金額ノ豫定モ大臣ノ裁可ヲ受ル者トス豈大藏卿ノ専行ヲ容レンヤ若シ検査院ノ検査ハ憑ムニ足ラス大臣ノ裁可モ信スルニ足ラスト爲スカ如キ時態ナリトセハ假令至善至美ノ法律ヲ制スルモ將タ何ノ功用力之レ爲サン各位此旨ヲ翫味セハ自カラ了解スルヲ得ン

○三十二番^{三浦安} 番外一番ノ辨明ヲ駁撃スルニ非サレトモ此ニ一言セサルヲ得ス夫レ時勢ノ變遷新陳ノ交代ハ古今ノ數ナリ故ニ大藏卿ト雖モ大臣ト雖モ其何ノ代ヲ問ハス必ス其人ヲ得ヘシトハ謂フ可ラス且ヤ會計検査院ノ在ル有リト言フモ既ニ數十年前ヨリ堂堂タル會計検査院ノ設ケ有ル外國ニ在テモ時トシテハ不正ナル検査官ノ出テシコト有ルト聞ケリ況ヤ我會計検査院ノ設置ノ如キハ日

尙ホ淺ク且百事彼ノ如ク整頓セサル者ヲヤ

○議長 三十二番ノ發言ハ討論ニ似タリ本會ハ第一讀會ナリ其本案ニ對シ質問スルハ可ナルモ然ラサレハ次會ヲ待テ之ヲ論ス可シ

○三十二番^{三浦安} 討論ニ非ス即チ質問ナリ已ニ前述ノ如ク法律ハ人ニ憑テ以テ設定スル者ニ非ス故ニ豫メ證券發行ノ金額ニ制限ヲ付シ歳入ノ幾分トセハ則チ大ニ會計ノ目的ヲ得ヘシト信ス敢テ問フ本案ノ意ニ據レハ年度ノ歳入ヲ以テ仕拂ヲ爲スニ在ルモ其第八條ニ六ヶ月云云ノ仕拂期限アルヲ以テ若シ翌年ニ跨ル者アルトキハ之ヲ如何スル耶或ハ大藏卿ノ意見ニ任スル耶

○番二番^{岩崎小外二郎} 其仕拂ノ期限ハ翌年ニ跨ルコトアルモ其支金ハ翌年度ニ跨ルコトナシ蓋シ數年ノ經驗ヲ以テ會計年度ハ七月ヨリ翌

年六月マテト定マリタルヲ以テ此證券モ亦其年度ノ七月乃至十一月ニ發行スル者ト爲セリ

○議長 他ニ發議ナキヲ以テ第一讀會ヲ了ル先ニ内閣委員ヨリ直ニ第二讀第三讀ノ兩會ヲ連開センコトヲ請求セルモ本日ハ他ニ議ス可キ議案ノ有ルヲ以テ其請求ニ應スルヲ得ス因テ内閣委員ハ退席アリテ可ナラン

午前第十一時二十分閉會

○本會ヲ了リシ後直ニ第四百六號議案第三讀會ヲ開ケリ

○議案第三讀會ノ發言ハ皆前ニ同定メテ本會ハ第一讀會ヲ了ル其議案ハ且百奉歸ノ成案並同定メテ本會ハ第一讀會ヲ了ル

元老院會議筆記 明治十六年十二月二十四日 禁傍聽

○第四百十八號議案 大藏省證券條例制定ノ儀 第二讀會及第三讀會

議長 佐野常民

出席議員

- 三番 箕作 麟祥
- 四番 野村 素介
- 七番 鍋島 直彬
- 八番 伊丹 重賢
- 九番 東久世通禧
- 十一番 榎村 正直
- 十二番 津田 出

- 十三番 西村 貞陽
- 十五番 柴原 和
- 十九番 上杉 茂憲
- 二十番 大鳥 圭介
- 二十一番 黒田 清綱
- 二十五番 鍋島 幹
- 二十七番 河田 景與
- 二十八番 大久保一翁
- 二十九番 渡邊 清
- 三十番 伊集院兼寛
- 三十一番 林 友幸

内閣委員 番外 参事院議官 渡邊 昇

午前第九時四十五分開場

○議長 本日ハ第四百十八號議案第二讀會ヲ開ク例ニ遵ヒ發議ス可

シ

- 三十二番 三浦 安
- 三十四番 福原 實
- 三十五番 本田 親雄
- 三十六番 神田 孝平
- 三十七番 田中 芳男
- 四十番 渡邊 洪基
- 四十二番 宮本 小一

書記官森山茂 朗讀

布告案

大藏省證券條例別紙ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取シ本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ可決シ次條ニ移ル

書記官森山茂 朗讀

大藏省證券條例

第一條 大藏省證券ハ出納上一時使用ノ爲メ大藏省ヨリ發行スル

モノトス

○議長 本條ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本條ニ可決シ次條ニ移ル

書記官森山茂 朗讀

第二條 大藏省證券ハ無記名利付定期拂ニシテ其發行シタル年度

ノ歲入ヲ以テ仕拂ヲ爲スモノトス

○議長 本條ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本條ニ可決シ次條ニ移ル

書記官森山茂 朗讀

第三條 大藏省證券ノ發行金額及利子金額ハ大藏卿之ヲ豫定シ太

政大臣ノ裁可ヲ受クヘシ

出席

二番

細川潤次郎

同

三十九番

津田 眞道

○三十六番 神田 孝平 第一讀會ニ略ホ端緒ヲ啓キタル如ク證券發行ノ金額ニ制限ヲ付スルハ尤モ緊要ノ事トス本官ハ現任大藏卿ヲ信スルノ厚キヨリ今日ニ在テハ毫モ疑懼ノ念ヲ懷カサレトモ將來若シ其人ヲ得サルトキハ大ニ財計ヲ誤ルナシト謂フ可ラス之ヲ外國ニ徴スルモ汚吏ノ爲メニ國家ノ財計ヲ蠹害セシコト少ナカラサルハ歴史上ニ於テ明カナリ因テ之ヲ修正シテ大藏省證券ノ發行金額ハ每年布告ヲ以テ其最年限ヲ定ムルモノトス但利子金額ハ大藏卿之ヲ豫定シ太政大臣ノ裁可ヲ受ク可シト爲ス是ナリ

○議長 三十六番ノ修正說ハ賛成者ナキヲ以テ消滅ス

○四十番 渡邊 洪基

本條ノ太政大臣ヲ修正シテ太政官ト爲サントス蓋シ

太政大臣ハ聖旨ヲ奉體シ百般ノ政務ヲ統裁スルノ官職ニシテ其權限ノ諸省卿ニ勝レルハ素ヨリ言ヲ俟タサレトモ之ヲ本案ノ如ク爲ストキハ或ハ允准ヲ待タス太政大臣ノ特權ヲ以テ裁定スルヤノ嫌ヒアリ然ルニ太政官ハ即チ陛下ノ臨御アリテ萬機ヲ親裁シ給フ處ナレハ之ヲ太政官ト爲サハ自カラ允准ノ意ヲ含蓄シ體面ニ於テモ穩安ナルヲ覺フ且近年布告式定マリテ奉勅布告ト書セルヨリ以來概子法文ニハ政府若クハ太政官ノ文字ヲ以テシ未タ嘗テ太政大臣ノ裁可ヲ受クト掲ケシ例ヲ見サルカ如シ其太政大臣ト爲スモ實際ニ於テハ敢テ不可ナカル可シト雖モ若シ之ヲ洋文ニ翻譯スルトキ

ハ其裁可ノ權ハ或ハ太政大臣ニ屬スルカ如キ嫌ヲ生セン是レ太政大臣ヲ改メテ太政官ト爲サントスル所以ナリ

○十三番 西村 貞陽 四十番ノ修正說ヲ賛成ス

○議長 四十番ノ修正說ハ賛成者アリ之ヲ問題ト爲ス

○議長 他ニ發議ナキヲ以テ四十番修正ノ決ヲ取シ該修正ニ同意者ハ起立セヨ

起立者十人

○議長 少數ナルヲ以テ現問題ハ消滅ス

○三十二番 三浦 安 本官ハ第一讀會ニ方リ證券發行ノ金額ニ制限ヲ付

スルノ修正說ヲ提出セント豫言セシモ退テ之ヲ熟考スルニ此證券タル國計上一時便利ノ爲メニ發行スルモノニシテ其發行額ハ固ヨ

リ歲入額ニ超過スルコトナク且利子モ年年豫算表ニ明掲ス可キモノト信スルヲ以テ豫陳ノ修正說ハ今提出セス

○議長 他ニ修正ノ發議ナキヲ以テ決ヲ取シ原案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者十八人

○議長 多數ナルヲ以テ原案ニ可決シ次條ニ移ル

書記官 森山 茂 朗讀

第四條 大藏省證券ハ百圓五百圓千圓五千圓壹萬圓ノ五種ニ別チ其仕拂期限ハ三ヶ月六ヶ月九ヶ月トス但其仕拂期日ハ各證券面

ニ記載スヘシ

○議長 發議ナケレハ決ヲ取シ本條ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者二十六人

○議長 多數ナルヲ以テ本條ニ可決シ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第五條 大藏省證券ハ何人ニテモ授受賣買スルヲ得

○議長 本條ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本條ニ可決シ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第六條 大藏省證券ノ仕拂及ヒ引換ニ關スル事務ハ日本銀行ニ於

テ取扱ハシムヘシ

○議長 本條ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本條ニ可決シ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第七條 大藏省證券ノ所持人ハ其仕拂ノ期日ニ至リ日本銀行本支

店又ハ代理店ニ於テ其仕拂ヲ請求スヘシ但其仕拂ハ通貨ヲ以テ

スルモノトス

○議長 本條ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者二十六人

○議長 多數ナルヲ以テ本條ニ可決シ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第八條 大藏省證券ハ其仕拂期日ヨリ起算シ滿六ヶ月間ハ之ヲ仕

拂フヘシ滿六ヶ月ヲ過ルトキハ一切仕拂ヲ爲サ、ルモノトス但仕拂期日後ハ利子ヲ付セサルモノトス

○議長 本條ヲ可トスル者ハ起立セヨ
起立者二十四人

○議長 多數ナルヲ以テ本條ニ可決シ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第九條 大藏省證券汚染又ハ毀損セシトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ差出シ證券ノ引換ヲ請フヘシ但其券面金額記號番號及ヒ主要ノ印部ヲ檢査シ其真正タルヲ證認シ得ヘキ者ニアラサレハ引換サルヘシ

○議長 本條ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本條ニ可決シ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第十條 大藏省證券ノ所持人其證券ヲ亡失セシトキハ其事由並ニ券面ノ金額仕拂期日記號番號及ヒ所有セシトキノ手續ヲ詳記シ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經テ大藏省ニ届出ヘシ大藏卿ハ其證券ノ授受賣買引換及ヒ仕拂ヲ差止ムヘキ旨ヲ告示スルモノトス但發見シタルトキハ同様ノ手續ヲ以テ届出ヘシ

○議長 本條ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者二十六人

○議長 多數ナルヲ以テ本條ニ可決シ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第十一條 亡失セシ證券ハ之ヲ發見セサルモ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ満足スル保證人二人以上ノ證明アルニ於テハ其元利金額ヲ仕拂フヘシ

○議長 本條ヲ可トスル者ハ起立セヨ
起立者二十六人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決シ次條ニ移ル
出席 四十三番 田邊 太一

書記官 森山茂 朗讀

第十二條 大藏省證券ヲ偽造若クハ變造シテ行使シタルモノハ刑法第二百四條第二項ニ依テ處斷ス

○議長 本條ヲ可トスル者ハ起立セヨ
起立者二十七人

○議長 多數ナルヲ以テ本條ニ可決シ本案第二讀會ハ此ニ訖リ續テ第三讀會ヲ開ク但シ朗讀ヲ省キ全部ヲ連帶シテ決ヲ取ン

○四十番 渡邊洪基 本官訥辨ノ致ス所ニ依ル耶前會ニ於テ提出セル修正說ハ少數ニシテ消滅セリ因テ仍ホ前陳ノ足ヲサルヲ補ヒ更ニ該說ヲ提出セントス

○議長 第二讀會ニ於テ提出セル修正ト異ナラサル耶

○四十番 渡邊洪基 然リ

○議長 各位ニ告ク本案ハ已ニ全部ヲ連帶シテ決ヲ取ント言シモ四十番ヨリ更ニ第三條ニ修正ヲ加ントスルノ發議アリ依テ先ツ布告

案及ヒ第一條第二條ヲ議題ト爲ス

○議長 發議ナケレハ決ヲ取ン布告案ヨリ第二條ニ至ルマテヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ可ト決ス亞テ第三條ヲ議題ト爲ス

○四十番 渡邊 洪基 曩ニ提出セル修正說ノ如ク「大臣」ノ二字ヲ改メテ官ト爲サントス抑モ太政大臣ハ閣議ヲ總判シ之ヲ陛下ニ奏上シ以テ允准ヲ請ヒ而ル後官民ニ宣布スルノ職官ニシテ勅奏任官ノ進退黜陟ヲ首メ苟モ太政官ノ裁定ニ係ル者ハ一トシテ與カリ知ラサルコト莫シ然レトモ本案ノ如ク太政大臣ノ裁可ヲ受クト特書スルトキハ全ク大臣ノ專權ニ歸スルノ概アリ蓋シ其裁可タル大臣ノ裁可ニ

非スシテ即チ陛下ノ裁可タルハ言ヲ俟タスト雖モ一方ニハ太政大臣ノ裁可ト云ヒ一方ニハ太政官ノ裁可ト云フカ如キハ本案ハ特ニ大臣之ヲ裁可シ他ノ法律ノ太政官ト有ルハ誰某ノ裁可ニ係ル等ノ疑ヒ無キ能ハス況ヤ此證券ハ縱令ヒ國庫ノ出納上ニ就テ一時便利ノ爲メニ發行スルモノト爲スモ頗ル重事ニシテ一變スレハ紙幣ト爲ルノ虞ナキヲ保セサルヲヤ是レ宜ク閣議ヲ盡シテ陛下ニ奏上シ以テ裁可ヲ請フヘキ者ニシテ決シテ太政大臣大藏卿等ノ專斷ニ委ス可キニ非サルナリ蓋シ僅僅一字ノ修正ニ係ルモ其關係少小ナラス願クハ定數ノ賛成者ヲ得テ議場ノ問題トナランコトヲ

○二十番 大鳥 圭介 四十番ノ修正說ヲ賛成ス修正ノ理由ハ發議者ヨリ詳陳セルヲ以テ敢テ贅セス第二讀會ニ於テ此修正ニ同意シテ起立セ

サリシハ本案ハ唯々國庫ノ出納上一時ノ便法ニ係ル法律ニシテ其各條ノ主義ニ明白ヲ缺カサル以上ハ務メテ原案ヲ傷ケサラムコトヲ欲セシニ由ル然ルニ熟考スルニ太政大臣ハ内閣ノ首領ニシテ即チ政府ノ主宰ナレハ苟モ太政官ニ於テ掌理スル百般ノ政務ハ悉ク太政大臣ノ裁決ニ係ラサルハナシ然ラハ則チ特ニ大臣ト掲ケレヨリ太政官ノ穩安ナルニ如カス且本案第十條ニ證券ヲ亡失セシトキハ大藏省ニ届出ヘシ大藏卿ハ云云ト記シテ事ヲ處理スル順序ヲ示セリ此文例ヲ以テスルモ太政官トセハ體裁其宜シキヲ得シ是レ本官カ前會ニ起立セサルニ拘ハラズ現修正說ヲ賛成スル大意ナリ

出席 楠本 正隆

○十五番 柴原和

本官ハ徵發令ニ太政大臣ト有リシ歟ト思惟セシニ因リ第二讀會ニハ四十番ノ修正ニ同意セサリシモ尙ホ該令及其他ノ條例等ヲ探討スルニ未タ其太政大臣ト掲クル者ヲ見ス彼ノ戒嚴令第七條ニハ太政官ト掲ケ日本銀行條例第二十七條ニハ政府ノ裁可ヲ受クヘシト有リ然レハ則チ本案ノ如キモ之ヲ太政官ト爲スハ允當ナリトス況ヤ太政大臣ト爲ハ大臣之ヲ專行スルヲ得ルノ嫌ヒ有ルヲヤ故ニ改メテ四十番ノ動議ヲ賛成ス

○十九番 上杉茂憲

○十一番 榎村正直

○四十三番 田邊太一

○十三番 西村貞陽

賛成
賛成
賛成
賛成

サリシハ本案ハ唯タ國庫ノ出納上一時ノ便法ニ係ル法律ニシテ其各條ノ主義ニ明白ヲ缺カサル以上ハ務メテ原案ヲ傷ケサラムコトヲ欲セシニ由ル然ルニ熟考スルニ太政大臣ハ内閣ノ首領ニシテ即チ政府ノ主宰ナレハ苟モ太政官ニ於テ掌理スル百般ノ政務ハ悉ク太政大臣ノ裁決ニ係ラサルハナシ然ラハ則チ特ニ大臣ト掲ケレヨリ太政官ノ穩安ナルニ如カス且本案第十條ニ證券ヲ亡失セシトキハ大藏省ニ届出ヘシ大藏卿ハ云云ト記シテ事ヲ處理スル順序ヲ示セリ此文例ヲ以テスルモ太政官トセハ體裁其宜シキヲ得ン是レ本官カ前會ニ起立セサルニ拘ハラス現修正說ヲ賛成スル大意ナリ

出席 楠本 正隆

○十五番 柴原和

本官ハ徵發令ニ太政大臣ト有リシ歟ト思惟セシニ因リ第二讀會ニハ四十番ノ修正ニ同意セサリシモ尙ホ該令及其他ノ條例等ヲ探討スルニ未タ其太政大臣ト掲クル者ヲ見ス彼ノ戒嚴令第七條ニハ太政官ト掲ケ日本銀行條例第二十七條ニハ政府ノ裁可ヲ受クヘシト有リ然レハ則チ本案ノ如キモ之ヲ太政官ト爲スハ允當ナリトス况ヤ太政大臣ト爲ハ大臣之ヲ專行スルヲ得ルノ嫌ヒ有ルヲヤ故ニ改メテ四十番ノ動議ヲ賛成ス

○十九番 上杉茂憲 賛成

○十一番 榎村正直 賛成

○四十三番 田邊太一 賛成

○十三番 西村貞陽 賛成

○議長 四十番ノ修正説ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○三十九番 津田真道 現問題ノ如ク大臣ヲ官ト爲シテ敢テ不可ナキカ如

○キモ思考スルニ太政官ノ裁可ト爲スモ亦穩當ナラストス蓋シ太政官ハ陛下ノ臨御シ給フ處ナルモ亦大臣參議ノ常ニ職權ニ依リ政務ヲ掌理スル所ナレハナリ因テ本官ハ問題消滅ヲ待テ更ニ上奏シテ裁下ヲ請フヘシトノ修正ヲ加ヘントス

○三番 箕作麟祥 本官モ前會ニ於テハ四十番ニ同意セサリシモ他ノ法律規則中未タ太政大臣ト特書セル有ルヲ看出ササルノミナラス内閣委員モ現問題ニ對シ敢テ辨駁ナキヲ以テ考フルモ別ニ理由アリテ然ク特書セルニ非サルヲ知ル故ニ問題ヲ賛成スルコト爾リ

○議長 内閣委員ニ問フ太政大臣ト特書セシハ別ニ理由アリテ然ル

カ

○外一番 渡邊昇 此字句ニ就テハ參事院ニ於テモ或ハ上奏シテ裁可ヲ

請フト爲スノ論説等出シモ遂ニ本案ノ如ク定マレリ然レトモ是等

○ニ關シテハ本官敢テ異説アル無シ是レ別ニ理由アリテ斯クセシニ非サルヲ以テナリ

○三十五番 本田親雄 現問題ヲ賛成ス

○議長 四十番ノ動議ヲ可トスル者ハ起立セヨ
起立者十八人

○議長 多數ナルヲ以テ問題ニ可決シ第四條ヨリ第十二條マテヲ議題ト爲ス但此各條中ニ於テ修正説アラハ該條項ノミ別ニ決ヲ取ン

退席 二十九番 渡邊 清

○三番箕作麟祥 質問ノ機ヲ失シタレトモ第七條ニ質疑ヲ要スル點アリ

議長之ヲ許スヤ否ヤ

○議長 已ヲ得サル者ト思考スルヲ以テ一應ノ質問ヲ許サン

○三番箕作麟祥 第七條代理店ノコトハ前會ニ於テ某議官モ質問セル如

ク日本銀行條例ニハ「コレレスボンデンス」ト出張所ハ有ルモ代理

店ナク本案ハ代理店アリテ出張所ナシ然ルニ若シ此出張所ニ就テ

仕拂ヲ請フモノ有レハ之カ仕拂ヲ爲スヤ否ヤ

○外番渡邊昇 第一讀會ニ於テ番外二番ヨリ辨明セル如ク從來各府

縣ニ在ル所ノ爲替方ヲ以テ代理店ト爲ス是レ即チ日本銀行ノ所謂

出張所ニシテ此所ニ於テ仕拂ヲ爲スナリ

○議長 他ニ發議ナキヲ以テ決ヲ取シ第四條乃至第十二條ヲ可トス

ル者ハ起立セヨ

起立者二十六人

○議長 多數ナルヲ以テ第四條ヨリ第十二條マテヲ確定可ト決ス

○議長 第三條本會ノ議決ヲ以テ確定ト看做スニ同意者ハ起立セヨ

起立者二十五人

○議長 多數ナルヲ以テ本案確定ノ旨ヲ具シ上奏セン散會セヨ

午前第十時五十分閉場

十七番	九鬼隆一
十八番	西 周
十九番	上杉 茂憲
二十番	大鳥 圭介
二十一番	黒田 清綱
二十五番	鍋島 幹
二十六番	關口 隆吉
二十七番	河田 景與
二十八番	大久保一翁
二十九番	渡邊 清
三十番	伊集院兼寛

三十一番	林 友幸
三十二番	三浦 安
三十四番	福原 實
三十五番	本田 親雄
三十六番	神田 孝平
三十七番	田中 芳男
三十八番	楠本 正隆
三十九番	津田 眞道
四十番	渡邊 洪基
四十一番	井田 讓
四十二番	官本 小一

四十三番 田邊 太一

内閣委員 番外一番 参事院議官 尾崎 三良

同 番外二番 参事院議官補 黒田 綱彦

午後零時四十五分開場

○議長 本日ハ第四百十九號議案ノ第一讀會ヲ開ク

書記官 森山 茂 朗讀

布告案

賭博犯ノ儀ハ刑法第二百六十條第二百六十一條ニ明文有之候ヘト
モ當分ノ内行政警察ノ處分ニ屬シ東京ハ警視廳其他ハ地方官ヲシ
テ別紙賭博犯處分規則ニ依リ取締懲罰ノ事ヲ行ハシム
右奉 勅旨布告候事

賭博犯處分規則

第一條 賭博ヲ爲シタル者ハ一月以上四年以下ノ懲罰及ヒ五圓以
上貳百圓以下ノ過料ニ處ス家屋ヲ貸與シ及ヒ見張ヲ爲シタル者
等亦同シ

博徒ニシテ黨類ヲ招結シ又ハ賭場ヲ開張シ又ハ兇器ヲ携帶シ又
ハ四隣ニ横行スル者ハ一年以上十年以下ノ懲罰及ヒ五十圓以上
五百圓以下ノ過料ニ處ス其招結ニ應シタル者ハ賭博ヲ爲サスト
雖モ前項ニ依テ處分ス

第二條 賭具及ヒ賭場ニ現存スル財物ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ
沒入ス

第三條 賭博犯ヲ取押フルニハ何人ノ家宅ヲ問ハス何時タリトモ

之ニ立入ルコトヲ得

第四條 此規則ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事東京府縣ヲ除ク

令ニ於テ便宜之ヲ定メ内務卿ノ許可ヲ得テ施行スルコトヲ得

○番一尾尾崎
外三頁

賭博犯罪ノ處分ハ刑法ニ其明文アルニ拘ラス本案ノ發布ヲ要スル理由ヲ概說セン彼ノ博徒ナル者近來漸ク增多シ良民ノ害ヲ爲ス少小ナラス往時ニ在テハ長野山梨群馬千葉靜岡ノ地方尤モ甚ク之ヲ長脇指ト稱シ皆其恒業ナク專ラ賭博ヲ之レ業トシ郷曲ニ横行シテ財物ヲ劫掠シ時ニ或ハ人ヲ殺傷スルニ至ル當時此等地方ノ主治者モ殆ント其處置ニ苦メリ大政維新ニ際シ嚴法ヲ以テ之ヲ驅除シ一時其跡ヲ斂メシモ明治七年司法省第八號達ヲ以テ現行犯ノ外ハ問サルコトト爲セシヨリ惡弊再燃ス然リ而モ當時新律

綱領改定律例ニ依リ處斷セルヲ以テ維新前ノ如ク甚シカラサリシ爾後新刑法ヲ實施セルヤ罰法漸ク輕ク治罪法モ亦精密ニ過キ又復タ今日ノ熾ンナルヲ致セリ夫レ博徒ノ親分ト稱スル者ハ常ニ數多ノ子分ヲ養ヒ賭場ヲ開クトキハ望子ヲ置テ警察官ノ動靜ヲ注視セシム故ニ警察官ノ千辛萬苦以テ探偵ヲ施シ突然賭場ニ闖入スルモ早ク已ニ之ヲ豫知シ賭具ヲ隱蔽シテ些モ形跡ヲ留メス偶々拿捕シテ裁判所ニ押送スレハ裁判官ハ證據充分ナラストシテ無罪放免ニ付シ警察官ノ積日ノ辛苦モ遂ニ水泡ニ屬セシム是ヲ以テ彼徒滋々猖獗ヲ逞ウシ啻ニ警察官ヲ畏懼セサルノミナラス却テ之ヲ嘲弄ス且其富家ニ迫リテ金圓ヲ強借シ或ハ婦女ニ暴行ヲ加フルヤ被害者之ヲ公衙ニ訴フルモ纔カニ罰金ヲ科スルニ過キス或ハ彼等ノ報復ノ後

害ヲ怖レ一旦告訴セルモ半途ニシテ之カ解訴ヲ爲シ怒ヲ忍ヒ恨ヲ吞テ黙止ス殆ント上ニ政府ナシト謂フモ誣サルノ情況ヲ見ル故ニ其博徒ト爲リ或ハ盜賊ト爲リ出沒窮リ無キ一種ノ惡漢ハ現刑法ノ如キ輕罰ヲ以懲治シ得ヘキニ非ス然レハ則チ刑法第二百六十條及ヒ第二百六十一條ハ之ヲ廢スルモ可ナレトモ今先ツ本案ヲ以テ處罰シ他日能ク良民ト爲ルニ至ラハ更ニ現刑法ニ復セントスルノ精神ナリ且ヤ今日ノ狀態ニ在テハ行政警察ノ處分ニ付スルヲ便利ナリトシ或ハ本案ノ如ク數個ノ條項ヲ立ルヲ要セス明治十四年第六十四號布告密賣淫取締法ニ倣ヒ簡單ナル法律ヲ設ケテ足ルトスル論者アル可キモ彼ノ密賣淫ナル者ノ風俗ヲ害スルハ未タ此ノ博徒ノ如ク其レ大ナラス是ヲ以テ本案ノ旨趣ハ第一條第一項ノ單ニ賭

博ノミニ關スル者ハ之ヲ輕クシ第二項ノ橫行等ニ係ル者ハ之ヲ重クシ第三條ニ其治罪ノ順序ヲ示シ第四條ニ其方法細則ハ地方官ノ便宜ニ委シテ制定セシムルニ在リ是レ本案ヲ發布セントスル理由ナリ願クハ速カニ之ヲ議定センコトヲ

○十九番 上杉茂憲 番外一番ノ説明ヲ得テ本案ノ大意ヲ了解ス然ルニ第一條ノ第一項ニ一月以上四年以下ノ懲罰及ヒ五圓以上貳百圓以下ノ過料ニ處シ第二項ニ一年以上十年以下ノ懲罰及ヒ五拾圓以上五百圓以下ノ過料ニ處スルコトヲ言ヘリ敢テ問フ其懲罰トハ禁錮ヲ謂フ歟又其過料ヲ納ムル能ハサル者ハ何ノ罰ニ換ル歟若クハ或ハ此等ハ第四條ニ言ヘル方法細則ニ於テ之ヲ定メシムル歟

○番二番 黒田綱彦 十九番ノ問フ如ク此懲罰法ハ中央政府之ヲ指定セス

第四條ニ言ヘル方法細則ニ於テ之ヲ定メントス但シ立案ノ旨趣ハ
重禁錮ニ處スルニ在リ各議官或ハ此懲罰法ヲ地方官ニ委シテ之ヲ
定メシメハ甲乙府縣其輕重ヲ異ニス可シトノ感ヲ懷ク無キヲ保セ
サレトモ其方法細則ハ内務卿ノ認可ヲ經セシムルヲ以テ此顧慮ヲ
要セス又或ハ立案ノ旨趣果シテ重禁錮ニ處スルニ在ラハ懲罰ト記
セス重禁錮ト掲ケテ可ナラント論スル有ランモ本案ノ事項ハ行政
處分ニ屬スル者ナレハ密賣淫取締布告ノ例ニ據リ司法ノ刑名ト區
別シテ以テ特ニ懲罰ト爲シタルナリ若シ夫レ過料ヲ納ムル能ハサ
ル者アレハ之ヲ懲罰ニ換ル等其方法ハ一ニ地方官ノ便宜之ヲ定ム
ルニ委セントス

○十五番柴原和當初本案ヲ一讀スルニ方リ其屢「當分ノ内云云」ノ布

告ヲ發スルハ策ノ得タル者ニ非サルヲ以テ廢棄說ヲ提出セント思
惟セリ然ルニ本官先ニ甲府縣岩鼻縣及ヒ千葉縣ニ在職セルトキ常
ニ博徒ノ處分ニ苦ミ殊ニ上野地方ニ徘徊スル博徒ハ其行狀尤モ兇
暴ニシテ寧口大盜ト爲ルモ小盜ト爲ルヲ耻ルノ氣象アリシ聞ク近
來此徒ニシテ強竊盜ニ變スル者甚タ多シト今日啻ニ密賣淫犯ノミ
ナラス賭博犯モ之ヲ行政處分ニ屬スルノ已ム可ラサル現況ナルヲ
以テ本官モ亦已ムヲ得ス本案ヲ是認ス但シ若シ賭博犯ノ處分ハ目
今姑ク行政警察ニ屬ストスルヤ刑法第二百六十條及ヒ第二百六十
一條ハ一時廢停スル者ト看做ササル可ラス然ルニ第二百六十一條
ノ但書ニ飲食ヲ賭スル者ハ此限ニアラスト言ヒ又舊法タル新律綱
領ニモ飲食ヲ賭スル者ハ論スル勿レト言ヘリ本案ニハ此等ノ明文

ヲ掲ケサレハ飲食物ヲ賭スル者亦賭博犯ヲ以テ處斷スル歟且其刑
 期長短及ヒ過料多寡ノ權衡ハ何ニ據リ之ヲ定メタル歟是レ新律綱
 領ニ據レル乎將タ舊幕府百個條ナル者ニ據レル乎又本案第一條第
 二項ニ四隣ニ橫行スルト言ヘル文字ハ新律綱領ノ如ク腰刀ヲ挾帶
 シ云云ナル上文ノ字句ヲ承ケテ四隣ニ橫行スト爲セハ其意義判然
 タレトモ本案ノ如ク又ハ四隣ニ橫行スルト言フトキハ其橫行トハ
 如何ナル所爲ヲ謂フヤヲ解スルヲ得ス舊幕府時代ニ於ル博徒ノ長
 刀ヲ帶ヒ銃槍ヲ提ケ以テ捕吏ニ抗拒シ兇暴ヲ鄉曲ニ逞ウスル如キ
 即チ是レ四隣ニ橫行スルノ顯然タル者ナリ但シ本項ノ橫行ハ黨類
 ヲ招結シ賭場ヲ開張シ兇器ヲ攜帶スル等ノ上文ヲ承ケテ之ヲ謂ル
 歟若シ然ラスト爲セハ單ニ黨類ヲ招結スル等ニ止マル者ヲ一年以

上十年以下ノ懲罰及ヒ五十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處スルハ恐
 クハ過當ナラン又第三條ニ何人ノ家宅ヲ問ハス立入ルコトヲ得ト言
 ヘルモ此家宅搜索ノコトハ既ニ治罪法ニモ其明文アルナラスヤ然
 ルニ特ニ此ノ如ク掲出スルヲ要スルハ蓋シ事實ノ有無ヲ問ハス街談
 巷說ヲ以テスルモ吾輩ノ家宅若クハ大臣參議ノ邸第ニモ立入ルコ
 トヲ得セシムルノ旨意ナル歟請フ此四點ノ質問ニ答辨センコトヲ
 ○外二番 黒田 綱彦 第一條第一項ノ懲罰一月以上四年以下過料五圓以上
 二百圓以下ト爲シタルハ刑法第二百六十一條ニ重禁錮一月以上罰
 金五圓以上ト云ヘル最少限ヲ根據ト爲シ而シテ最多限ハ本案ニ再
 犯加重等ノ刑例ヲ設ケサルヲ以テ斯ク定メタリ又第二項ノ最少限
 ハ改定律例第二百六十九條ノ三犯以上懲役一年ト爲セルニ原由シ

最多限ハ新律綱領ノ流一等ト爲セルニ依倣スト雖モ別ニ確乎タル標準アルニ非ス此懲罰及ヒ過料ハ過當ナル如クナレトモ其實ハ博徒ヲ威嚇シ以テ弊害ヲ防ントスルニ外ナラス質疑者ハ四隣ニ横行スル云云ノ字句ニ關シテ新律綱領ヲ引キ本案ノ旨意ヲ解スルヲ得スト論スレトモ本員却テ其言ニ疑ヒ無キ能ハス夫レ新律綱領ノ行文タル「若シ産業ナクシテ常ニ腰刀ヲ挾帶シ無賴ノ徒ヲ招結シ賭場ヲ開張シ四隣ニ横行スル者ハ皆流一等」ト言フニ在テ四隣ニ横行スル云云ノ字句ハ決シテ上文ヲ承ル者ニ非ス皆ノ字以テ之ヲ證スルニ足ル豈其旨意ヲ解スルヲ得スト謂フ可ケンヤ然リ而シテ本案ハ必シモ新律綱領ニ準據セルニ非ス其横行ノ意義ヲ概言スレハ專ラ長野山梨等ノ各縣地方ニ行ハレ俗ニグツリ若クハユスリト稱スル

者ニシテ即チ他人ノ財物ヲ強借シ或ハ鄉村ノ社祭等ニ暴戻ノ舉動ヲ他人ニ加フル如キ是ナリ其第三條ニ何人ノ家宅ヲ間ハス立入ルコトヲ得ト特掲セル所以ハ刑法第二百六十一條ニ現ニ博奕ヲ爲シタルモノハト言ヒ以テ唯其現行犯ノミニ止メタルモ本案ハ非現行犯ト雖モ押拿セシメントス且此條文微リセハ犯罪人ヲ押拿スルニ行政警察官ノ職權ヲ以テ其家宅ニ立入ルコトヲ得サルノ不便アルカ故ナリ

○十五番柴原和 番外二番ノ答辨ノ旨趣ハ了解スルヲ得タルモ本官ノ所見ヲ以テスレハ新律綱領ノ行文タル冒頭ニ若シ産業無クシテト言ヒ即チ遊手徒食ノ意義ヲ以テ之ヲ起シ四隣ニ横行スル者ハ皆流一等ト言フヲ以テ之ヲ結ヘリ故ニ其行文意義明白ナレトモ本案ノ

如ク又ハ。四隣ニ横行スル者ハト言フトキハ單身ヲ以テ横行スル歟
 何等ノ所爲ヲ以テ横行スル歟甚タ明白ヲ缺クヲ免レス且ヤ番外二
 番ハ本官ノ第一質問即チ飲食物ヲ賭スル者云云ニ對シ未タ之カ答
 辨ヲ爲サス是亦本案ヲ以テ處罰スルヤ否ヤ更ニ其答辨ヲ煩ハス
 ○番外^{尾崎三頁} 十五番ノ質問ニ答シ刑法ニ於テハ飲食物ヲ賭スルハ
 賭博犯ヲ以テ罰スル限リニ在ラサレトモ本案ハ之ニモ及ホンサト
 欲ス近來飲食物ヲ賭スル者甚タ多ク例ヘハ八百善ノ割烹一人分價
 直金三圓乃至五圓ト定メ以テ輸贏ヲ試ミ輸者ヨリ其金圓ヲ收ムル
 等ノ如シ蓋シ其處分ハ地方官ニ委スルモ事情ヲ酌量シテ一年以上
 四年以下五圓以上二百圓以下ノ範圍内ニ於テ之ヲ罰セシムルナレ
 ハ敢テ過當ナル處斷ヲ下ササルヤ知ル可シ

○三番^{箕作麟祥}

番外一番ノ説明セル如ク博徒ノ親分ト稱スル者ハ數百
 千人ノ子分ヲ擁シ以テ宛モ一政府ノ體ヲ成シ賭博之レ務メトシ時
 ニ四隣ニ横行シテ以テ良民ニ妨害ヲ加フルハ恰モ治外法權ノ人民
 ノ如シ彼ノ歐洲各國ニ於テ其縉士等ノ骨牌ヲ弄スル類トハ全ク其
 趣ヲ異ニシ本邦ニハ古來ヨリ一種ノ惡漢アリテ蠱害ヲ爲ス甚タ大
 ナリ今若シ歐洲各國ニ行ルル賭博ノ如キ者ナラハ現刑法ノ如ク其
 罰輕キニ出テ可ナレトモ苟モ此一種ノ惡漢ヲ驅除シテ良民ヲ保護
 セント欲セハ別ニ其方法ヲ設ケサル可ラス故ニ悅テ本案ヲ賛成ス
 但タ少ク修正ヲ加ヘントスル意見アレトモ第二讀會ヲ待テ之ヲ提
 出セントス因テ聊カ本案ノ疑義ヲ內閣委員ニ質サン第一條第一項
 ノ末文ノ見張ヲ爲シタル者等ノ等ノ字ハ上文ヲ承ケテ之ヲ結ヘル

者ナル歟若クハ他ニ此ニ類スル者ハ總テ之ニ包括セシムル歟

○外一番三頁尾崎等ノ字ハ上文ヲ結ヘルニ非スシテ他ニ本文ニ類スル

者アレハ之ヲ網羅セントスルノ旨意ヲ以テ填用セリ蓋シ一一細目ヲ掲ケテ網羅セントスレハ却テ脱漏スルノ恐レ有レハナリ

○十九番上杉茂憲本案ヲ賛成ス抑モ是レ司法權ニ關涉スル嫌ヒ無キニ

非サレトモ内閣委員モ辨明セル如ク目下若シ嚴ニ博徒ヲ戒禁セントスルニハ現刑法ヲ以テスルハ蓋シ難カラシ故ニ行政警察官ヲシテ嚴ニ提警セシムルニ如カス是レ本官ノ本案ヲ是認スル大意ナリ

○三十九番津田真道本案ハ深ク方今ノ時宜ニ適應スルヲ以テ刑法ノ明

文アルト否トニ拘ハラズ大ニ之ヲ是認ス從來彼ノ博徒ナル者ハ内閣委員及ヒ三番議官モ言ヘル如ク別ニ一ノ社會ヲ爲シ恰モ化外ノ

民ニ均シク良民ニ妨害ヲ與フル少小ナラス然ルニ是ヲ之レ察セス新刑法ニ於テ其刑罰ヲ輕クセルカ故ニ彼レ益增長シ巧ミニ法網ヲ脱スルノミナラス動モスレハ政府ヲ蔑視シ警察官ヲ嘲弄シ以テ横行兇暴ヲ逞ウスルニ至レリ斯ル惡徒ヲ懲罰センニハ宜ク本案ノ如キ嚴法ヲ發シ其膽ヲ寒カラシムヘシ政府ノ本案ヲ制定スル主意亦此ニ在ルヤ明カナリ本官ハ地方ノ事情ニ通セサレトモ嘗テ地方ニ在職セル同列議官ノ説ク所ヲ聞クニ博徒ノ尤モ熾ンナル地方ハ強竊盜隨テ多ク是レ其犯人ノ逮捕ヲ被ラントスルニ遣ヘハ輒チ彼ノ親分ナル者ニ哀ヲ乞ヒ親分之ヲ舍匿スルニ由ルト而シテ其犯人モ顯ハニ強竊盜ヲ爲セリト云ヒ以テ其身ヲ托スルニ非スシテ子分タルヲ望ムト云フヲ名トスルナルヘキモ此徒ノ爲メニハ堅牢ナル巢

窟ト謂フ可シ然リ而シテ其地方ニ住居スル良民ハ富者貧者トヲ論
 セス稼穡ニカメ所謂粒粒辛苦以テ僅ニ貯蓄セル貨財モ一朝此徒ノ
 爲メニ掠奪セラレ甚シキハ殺傷ニ遭フノ不幸ヲ免レス是ヲ以テ往
 時ノ俗諺ニ江戸兒ハ宵越錢ヲ使フヲ耻ルト云ヘル如ク全ク貨財ヲ
 貯蓄スル念ヲ抛チ相胥ヒテ窮乏ノ域ニ陷ラントス夫レ一家ノ窮乏
 ハ即チ一國ノ窮乏ニシテ遂ニ國家ノ貧困ヲ招ク一大原因ト爲ル無
 キヲ保セス故ニ本官ハ到底刑法治罪法共ニ改正ヲ要スト信スレト
 モ本案ハ甚タ目下ノ時宜ニ適應スル者タルヲ以テ欣テ之ヲ贊成ス
 ○二十九番 渡邊 本官ハ從前賭博ノ事ニ關シ別ニ感覺ヲ有セサリシ
 カ本年各地方ヲ巡察シ始メテ其患害ノ巨大ナルヲ知レリ聞ク近來
 此徒漸ク增長シ能ク巧ミニ法網ヲ脱カレ獨リ賭博ヲ鬪ハスノミナ

ラス俗ニ土臺貸ト稱シ賭博ノ資金ヲ貸與シテ以テ重利ヲ收ムル有
 リ或ハ窩舍ノ樓上ニ賭場ヲ開キテ代人ニ管掌セシメ彼ノ親分ハ別
 席ニ在テ之カ指揮ヲ爲ス其指揮ノ手段タル奴婢又ハ他人ヲ雇ヒ親
 分ト代人トノ間ニ來往シ符牒若クハ暗號ヲ以テ交互ニ密報ス此輩
 ノ雇直ハ望子即チ見張人ヨリハ多額ナリト又聞ク博徒ハ割烹店若
 クハ妓樓娼館等ニ在テハ最も多金ヲ擲ツノ華主ニシテ之ヲ接遇ス
 ル極メテ重厚ナリト政府早ク此弊ヲ洞見シ本案ノ如キ峻法ヲ發シ
 テ以テ良民ヲ蠹害スル匪徒ヲ驅除シ賭博ヲ幫助スルノ惡漢ヲ懲戒
 スルニ在ルナリ然ルニ本案ノ文章ヲ以テシテハ咸ク之ヲ網羅シ去
 ルヲ得ス又第一條第二項ハ主トシテ彼ノ親分ノ行爲ヲ指スニ似タ
 レトモ親分ハ多クハ其躬賭場ニ臨マス代人ヲシテ之ヲ管掌セシム

故ニ警察官ノ此徒ヲ捕拿スルニ當リ常ニ親分ヲ捕拿スルコトヲ得サルナリ又聞ク群馬縣下白井郡某村ニ住居セル親分某ノ如キ賭博ニ關スル一歳ノ收入金額ハ五千圓餘ニ及フト何ヲ以テ斯ノ如キ巨額ノ金圓ヲ攫取スル乎ト問フニ賭博ニ用ユル駒牌ナル者ヲ貸與シ賭事終レハ駒牌ノ多寡ニ應シ若干金圓ヲ附シテ還致セシムルニ由ルト云ヘリ又聞ク山梨縣ニ於テハ現ニ親分ナル者ノ縣會ノ議員若クハ町村ノ戸長ニ選マレ長野縣ニ於テハ馬車會社ノ社長ニ擧ラレタリト博徒ノ勢力ヲ有スル以テ證スルニ足ル若シ偶此徒ヲ告發スル者アレハ徑チニ殘忍ナル報復ヲ爲ス故ニ其報復ヲ畏レ已ムヲ得スシテ默視ニ付ス其地方良民ノ困難實ニ想フ可キナリ大政維新ヨリ明治二年ニ及フマテハ或ハ斬梟ニ處シ或ハ牢獄ニ下シ毫モ寬假

スル無クシテ盡ク之ヲ一掃シタルモ爾來其法網漸ク緩漫ニ流レ遂ニ復タ今日ノ熾シナルヲ致セリ且ヤ刑法第二百六十一條ノ但書ニ「飲食物ヲ賭スル者ハ此限ニアラス」ト明記セルカ故ニ近來ハ釀酒又ハ其他ノ物品ノ名義ヲ以テ相賭シ密カニ之ヲ金圓ニ換算シ別ニ貸借證書ヲ作り輸贏決了スレハ其金圓ヲ合計シテ證書ニ記入シ輸者ヨリ贏者ニ交付ス若シ期限ヲ過キテ辨償セサレハ直チニ裁判所ニ告訴シ裁判官ハ其證書ニ徴シテ之カ判決ヲ爲ササルヲ得ス宜ヘナリ某地方ニ於テ博奕裁判所ノ評目ヲ來セルコトヲ第三條ハ現行犯ハ言ヲ俟ス非現行犯ト雖モ捕拿スルヲ得ル治罪順序ヲ指示スル者ナレハ其本文ニ證憑取調及ヒ檢證等ノ文字ヲ明記スルヲ要ス然ラサレハ子分ヲ捕拿シテ之ヲ糺問スルモ彼レ強拗ニシテ親分并ニ

黨類ノ姓名ヲ供白セサル場合ニ當リ其證據ヲ搜查スルニ苦マント
ス且夫レ本條ハ治罪法ヲ破壊スル者ニシテ妄リニ他人ノ家宅ニ立
入ル如キノ弊害ヲ生スル無キヲ保セス故ニ併セテ警察官ハ證票ヲ
携帯スル等ノ文字ヲモ明カニ記入センコトヲ欲ス願クハ本會ヲ終
ルニ際シテ修正委員ヲ設ケ以テ本案ノ要旨ヲ貫徹セシメンコトヲ
而シテ其修正タル簡單ナル法案ナレハ半日間ニシテ成ルヲ得ヘキ
ナリ

○十五番 柴原和

刑法第二百六十一條ノ但書ニ「飲食物ヲ賭スル者ハ此
限ニアラス」ト言ヘルモ本案ニハ飲食物ヲモ包含セシムルヤト問ヒ
シニ内閣委員ハ例ヘハ八百善ノ割烹ヲ賭シテ輸贏ヲ試ムル如キモ
本案ニ依テ處罰スト答ヘタリ果シテ然ル如クンハ行政警察官ノ處

分ハ那邊ニマテ及ホス可キヤヲ知ラサラントス聞ク松江裁判所ニ
於テ檢察官カ官廳ノ罌紙一枚ヲ私用セル官吏ヲ告發シ遂ニ之ヲ輕
禁錮ニ處シタル有リト本官ハ本案ニ關シ甚タ心ヲ安スル能ハサル
ナリ更ニ間フ酒宴ノ席間ニ於テ一杯二杯ノ酒ヲ賭シ以テ游技ノ輸
贏ヲ試ミ或ハ楊弓店ニ於テ中矢ノ多少ヲ鬪ハシ若クハ或ハ競馬射
的圍碁將棊雙六等ヲ以テ勝負ヲ賭スル如キモ亦均ク本案ニ依テ處
斷スル耶

○外番 尾崎三良

本案ハ無賴ノ博徒ヲ制禁スル爲メニ設ル者ニシテ素
ヨリ競馬射的等ノ賭事ニ及ホスコト無シ

○二十番 大鳥圭介

本案ハ各條項ニ對シテ質疑スルヲ要セサルノミナラ
ス極メテ今日ノ時宜ニ適應セル者ト信スルヲ以テ喜テ之ヲ贊成ス

舊幕府ノ時ニ於テハ某議官モ陳述セル如ク博徒ヲ長脇指ト稱シ上
 甲信三州ノ如キ最モ此徒ノ熾シナル地方ニシテ常ニ兇暴ヲ恣ニシ
 若シ告發スル者アレハ乍チ報復ヲ爲シ跋扈蹂躪毫モ憚ル所ナク甚
 シキハ告發者ノ親子兄弟ヲ併セテ殺傷スルニ至ル偶マ一人ノ親分
 ヲ刑戮ニ處スレハ隨テ他ノ親分ヲ出シ官府常ニ其處置ニ苦辛セリ
 維新以來稍其跡ヲ斂メタレトモ而モ處罰ノ輕キヨリシテ復タ今日
 ノ景狀ヲ現セシナリ二十九番ハ親分ヲ押拿スルヲ得スト云フモ地
 方警察官ハ甲地ノ親分某ハ子分若干人ヲ養ヒ乙地ノ親分某ハ某町
 村ニ住居スル等ノコトハ常ニ之ヲ探知セルヤ必セリ又十五番ハ飲
 食物ヲ賭スルコトニ望慮スレトモ本案ハ博徒ヲ處罰スル者ニシテ
 游技戲事ニ某物等ヲ賭スル者ニ及ホササルハ言ヲ俟タス蓋シ一利

ヲ興セハ一害ノ之ニ隨フハ自然ノ情勢ニシテ數ノ免レサル所ナレ
 トモ本官ノ所見ヲ以テスレハ本案ハ啻ニ障害ノ甚タ少ナキノミナ
 ラス人民ニ幸福ヲ與フル實ニ大ナルヲ信ス因テ直チニ之ヲ議了シ
 速カニ發布スルニ至ランコトヲ望ム

○三十二番^{三浦安}

本案ノ大體ヲ贊成ス内閣委員ノ説明ニ依レハ是レ

永遠ニ施行セントスル者ニ非ス約言スレハ現行ノ刑法治罪法ヲ以
 テシテハ良民ニ大害ヲ與フル博徒ヲ處置スルコトヲ得ス故ニ一時
 便法ヲ設ケテ之ヲ驅除セントスルニ外ナラス故ニ賭博ニ關スル刑
 法ノ條項ハ之ヲ廢除スルコト無ク此徒ノ他日良民ト爲ルヤ乃チ本
 案ヲ止メテ刑法ニ復セントスト然リト雖モ彼レ容易ニ良民ト爲リ
 以テ刑法ニ復スル如キハ豫メ期ス可ラス因テ本官ハ本案ヲ觀テ以

テ峻嚴ナリト爲サス尙ホ一層峻嚴ヲ加フルモ可ナリト信スルナリ
本案第一條第二項ハ新律綱領ノ行文ニ倣ヒ彼ハ無賴ノ徒ノ字句ヲ
以テ冒頭ト爲シ此ハ博徒ノ字句ヲ以テ冒頭ト爲セル者ニシテ此徒
ヲ網羅スルニ尤モ宜シトス只少シク修正ヲ要スル意見アレハ第二
讀會ヲ待テ之ヲ提出セン

○議長 他ニ發議ナキヲ以テ此ニ第一讀會ヲ了ル先キニ二十九番ハ
修正委員ヲ設ケント建議セリ因テ之ヲ衆議ニ問ントス

○番一尾崎
外三頁 今ヤ議長ハ二十九番ノ修正委員ヲ置ントスル建議ノ
決ヲ取ルコトヲ告ラル然ルニ本案ニ對スル各議官ノ論說ヲ傾聽ス
ルニ或ハ少シク字句ニ修正ヲ要スル有ル可キモ特ニ修正委員ヲ設
クル要用ヲ見サルカ如シ且夫レ二十九番ハ親分ハ賭場ニ臨マス代

人ヲシテ管掌セシムルカ故ニ親分ヲ處罰スルヲ得スト云フモ決シ
テ然ラス何トナレハ親分ハ首ニシテ代人ハ從ナルヲ以テナリ又本
案ヲ修正シテ賭博ニ關涉スル者ヲ網羅ス可シト云フモ若シ悉ク網
羅セント欲シテ之カ細目ヲ擧レハ却テ脫漏ヲ致ス無キヲ保セサル
ナリ却テ說ク凡ソ博徒ナル者田舎ニ在テハ往往富家ニ金錢ヲ強借
シ或ハ途上ニ婦女ノ筭簪ヲ抽取シテ其家ニ到リ婦女ト私通スト詐
言シ筭簪ヲ證トシテ家人ヲ威嚇シ遂ニ金圓ヲ奪取シ或ハ其他社祭
等ニ暴行ヲ爲ス如キ總テ横行ノ文字ヲ以テ之ヲ包括スルニ因リ二
十九番ノ如ク苦慮スルヲ要セス敢テ請フ本日直チニ第二讀會ヲ連
開センコトヲ

○二十九番 渡邊清 本官ノ意見タル逐一ニ細目ヲ掲ケント欲スルニ非

ス若シ第一條第一項ノ如ク單ニ見張ト言ヘハ其他彼ノ土臺貸等ニ及ホスコトヲ得ス故ニ幫助等ノ文字ヲ加ヘテ其包括スル區域ヲ廣メントスルニ在リ且第三條ニ對シテモ別ニ意見ノ在ル有レハ本案ノ急施ヲ要スルハ論ヲ俟タサレトモ直チニ第二讀會ヲ開クトキハ議論多岐ニ涉リ却テ日子ヲ費スノ恐レ無キ能ハス故ニ委員ニ付託シテ修正ヲ加ヘシメ其報告ヲ待テ速カニ議了スルノ便宜ナルニ如カス

○四十番

三浦安

本案ハ戒嚴令ニ均シク大ニ法律ノ活動ヲ與フル者トス唯其文字ハ少シク妥當ヲ缺ク如クナレトモ即座ニ好文字ヲ拈出スル能ハス然レトモ急施ヲ要スル本案ナレハ本日直チニ第二讀會ヲ開キ以テ之ヲ議センコトヲ欲ス

○議長 二十九番ハ修正委員ヲ置ント建議シ内閣委員ハ本日直チニ第二讀會ヲ開シコトヲ望ムトノ請求アリ今先ツ二十九番ノ建議ノ決ヲ取シ其建議ニ同意者ハ起立セヨ

起立者六人

○議長 少數ナルヲ以テ二十九番ノ建議ハ消滅ス

○番二番

黒田綱彦

已ニ番外一番ノ請求セル如ク本日直チニ第二讀會ヲ開シコトヲ希望ス

○議長 内閣委員モ請求シ且他ニ大臣ノ急施ヲ要スル牒書ヲ附スル兩議案ヲ下付セリ是レ兩三日内ニハ必ス開會セサル可ラス因テ内閣委員ノ請求ノ決ヲ取シ

○二十九番

渡邊清

議決前ニ更ニ特別ノ建議ヲ爲ス前陳ノ如ク本案ニ

○對シ修正ヲ欲スル意見アリテ未タ相當ノ好文字ヲ按出スルヲ得ス
且本日ハ時已ニ晷ヲ移セルニ因リ願クハ少シク考量ノ餘地ヲ與ヘ
明日ヲ以テ開會センコトヲ

○議長 二十九番ハ更ニ特別建議アリ其言穩當ナルニ似タリ因テ之
ヲ採用シ明日例刻ヨリ第二讀會ヲ開カン本日ハ散會セヨ

○午後第二時三十七分閉場

元老院會議筆記 明治十六年十二月二十五日

禁傍聽

○第四百十九號議案 賭博犯處分規則制定ノ儀 第二第三讀會

議長 佐野 常民

出席議員

- 二番 細川潤次郎
- 三番 箕作 麟祥
- 四番 野村 素介
- 七番 鍋島 直彬
- 八番 伊丹 重賢
- 九番 東久世通禧
- 十二番 榎村 正直

十五番	柴原 和
十八番	西 周
十九番	上杉 茂憲
二十番	大鳥 圭介
二十一番	黒田 清綱
二十五番	鍋島 幹
二十七番	河田 景與
二十八番	大久保一翁
二十九番	渡邊 清
三十番	伊集院兼寛
三十一番	林 友幸

三十二番	三浦 安
三十五番	本田 親雄
三十六番	神田 孝平
三十八番	楠本 正隆
三十九番	津田 眞道
四十番	渡邊 洪基
四十二番	官本 小一
四十三番	田邊 太一
内閣委員	尾崎 三良
参事院議官	網彦
参事院議官補	黒田 綱彦

午前第十時開場

○議長 本日ハ第四百十九號議案ノ第二讀會ヲ開ク

書記官 森山 茂 朗讀

布告案

賭博犯ノ儀ハ刑法第二百六十條第二百六十一條ニ明文有之候ヘトモ當分ノ内行政警察ノ處分ニ屬シ東京ハ警視廳其他ハ地方官ヲシテ別紙賭博犯處分規則ニ依リ取締懲罰ノ事ヲ行ハシム
右奉 勅旨布告候事

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取シ布告案ニ同意者ハ起立セヨ

起立者二十四人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス十五番

書記官 森山 茂 朗讀

賭博犯處分規則

第一條 賭博ヲ爲シタル者ハ一月以上四年以下ノ懲罰及ヒ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス家屋ヲ貸與シ及ヒ見張ヲ爲シタル者等亦同シ

○二十九番 渡邊 清 本條第一項ニ修正ヲ加ヘン其修正タル家屋ノ下ニ

財物ノ二字ヲ加ヘ「及ヒ見張」ノ四字ヲ削リ之ニ換ルニ其他總テ幫助ノ六字ヲ以テセントス内閣委員ハ結文ノ「等」ノ字ヲ以テ包括セシムト云フモ其行文ヲ以テ之ヲ觀レハ家屋ヲ貸與スルト見張ヲ爲ストノ二者ニ止マルカ如シ然ルニ前會ニモ陳述セシ如ク此二者ノ外ニ土臺貸ヲ爲シ又ハ賭場ノ使役ヲ執ル等凡ソ彼徒ノ幫助ト爲ル可キ者種種之レ有リ而シテ其惡弊タル群馬、山梨、埼玉、長野ノ各地方

ヲ最モ甚シトス因テ前陳ノ如ク修正シ以テ盡ク網羅シ去ント欲ス
 第二項以下ニ對シテモ尙ホ修正ヲ要スル意見アレトモ今此ニ豫陳
 スルヲ須ヒス本官ノ思想ヲ以テスレハ本案ハ假令速カニ議了シテ
 之ヲ發布スルモ來年二三月ニ至ラサレハ實施スルヲ得サル可シト
 信ス何トナレハ本案ノ事體ハ頗ル重大且秘密ニ係リ尤モ地方官ノ
 熟慮深按スルヲ要スル所ナレハナリ本官ノ地方巡回中ニ聞見スル
 所ヲ以テスルモ三四ノ縣下ニ親分ト稱スル者五六十人アリテ各自
 ニ二三十人乃至三四百人ノ子分ヲ擁セリ之ヲ合セハ或ハ二三千人
 ノ多キニ及フナラン爾時信州伊那郡ニ於テ十四五人ノ子分相謀リ
 棍棒ヲ以テ親分ノ頭腦ヲ粉碎シテ死ニ致セル有リ又浦和重罪裁判
 所ニ於テ審糺中ニ係レル博徒ハ現ニ其穉兒ヲ虐殺セル有リ其狀ヲ

聞クニ一日父ナル者酒ヲ飲ムニ當リ年齒五六歳ノ兒子其傍ニ在テ
 涕泣ス父聒噪ナリトシテ之ヲ樓梯ノ中央ニ吊縛ス然ルモ尙ホ涕泣
 シテ歇マス父乃チ怒ヲ發シ爐中ノ櫛櫛ヲ把テ兒子ノ肛門ヲ洞シ以
 テ死ニ抵ラシメタリト其殘酷暴戾ナル寒カラスシテ肌ニ粟セシム
 此ノ如キ惡徒ナルカ故ニ本案ヲ發布セハ如何ナル舉動ヲ爲スヤヲ
 測ル可ラス九州地方ニ行ルル社祭遊戲ノ賭博ノ如キハ姑ク之ヲ論
 セスシテ可ナルモ害惡尤モ甚シキ地方ニ在テハ本案ヲ發布スル以
 前ニ地方長官ニ令シテ逮捕ノ準備ヲ爲シ發布スルト同時ニ之ニ著
 手セシメサル可ラス而シテ地方長官ノ意見ヲ以テ或ハ兵隊ノ郊外
 運動ヲ名トシ若クハ此他ノ手段ヲ以テ豫メ警備ヲ鎮臺ニ請求スル
 モ之レ有ラン然ラサレハ鎮臺ハ暴舉ノ機ニ臨ミテ咄嗟ノ警備ニ應

諾セス是レ本官ノ前職ニ在テ嘗テ實驗セシ所ナリ且其驅除ニ著手スルヤ數多ノ犯人ヲ押拿ス可キヲ以テ囚繫スル獄舎ノ設備ヲ要スルモ之レ有ラン或ハ脅迫ニ因テ博徒ノ群ニ加ハレル者若クハ悔悟シテ自首スル者ノ處分方ヲ内務卿ニ稟議スルモ之レ有ラン或ハ賭博ニ起因スル貸借證書ハ無効ニ屬セシムルヲ具申シ爲メニ其法案ノ本院ニ下付シテ議定セシムルコトモ之レ有ラン本官ノ本案ハ速ニ施行スルヲ得サル者ト云フハ蓋シ之カ爲メナリ且ヤ本案ニハ務メテ區域ノ廣濶ナル文字ヲ填用シ以テ賭博ニ關涉スル徒類ヲ包括セシムルヲ優レリトス此修正說ノ幸ニ贊成ヲ得テ問題ト爲ランコトヲ切望ス

○十九番 上杉茂憲 二十九番ノ修正說ハ尙ホ内閣委員ニ質問スル後ニ非

サレハ未タ去就ヲ明言スルヲ得ス第一條第一項ニ家屋ヲ貸與スルト見張ヲ爲ストノ二者ヲ舉テ其他ノ細目ヲ掲ケサルハ敢テ之ヲ掲ケサルモ悉皆包括スル者ト看テ然セシ歟若クハ此外ハ包括セシメサル歟

○議長 十九番ニ告ク質問ハ第一讀會ニ於テ之ヲ爲スノ例規ニシテ已ムヲ得サル場合ヲ除クノ外ハ第二讀會以後ニ之ヲ爲ササルヲ要ス況シテ二十九番ノ動議ハ未タ問題ト爲ラサルナレハ徒ヲニ議場ノ整頓ニ混雜ヲ來サントスルヲヤ且其質問ノ趣旨タル昨日内閣委員ノ某議官ニ對シテ細目ノ如キハ等ノ字ニ含有セシムト答ヘタル有リ但シ内閣委員ノ尙ホ之カ答辨ヲ爲スハ敢テ制止セサルナリ

○外番 二番 黒田綱彦 議長ノ論詞アルヲ以テ昨日某議官ニ答辨セルニ拘ハ

○ラス更二十九番ニ答辨セン本案ハ獨リ家屋ヲ貸與スル者ト見張ヲ爲ス者トニ止マラスシテ彼徒ノ幫助者并ニ其耳目ト爲リテ常ニ警察官ノ動靜ヲ報道スル者ノ如キモ總テ等ノ字ニ含蓄セシムルナリ

○三番^{實作 麟祥} 本官ハ本案ニ對シ已ニ大ニ賛成スルノ意ヲ表セリ然ルニ字句ノ完全ナラサル爲メニ善美ナル精神ヲ貫徹セシメサルハ遺憾ナレハ第一讀會ニ等ノ字ノ意義ヲ内閣委員ニ質問シ其答辨ヲ得テ之ヲ領會シタリ然レトモ等ノ字ノ意義タル時ニ上文ヲ總合スル意義ト爲リ若クハ時ニ他ノ類似ノ者ヲ包括スル意義ト爲レル活用文字ニシテ其意義ノ果シテ孰レニ在ルヤ判然タラス且夫レ我カ刑法其他ニモ此用例ヲ見ス歐洲各國ノ法律ニ於ルモ亦然リ此ノ如キ兩様ニ活用スル文字ヲ法律ノ罰則ニ填スルハ甚タ不可ナリ故ニ本

官モ好文字ヲ得テ修正ヲ加ヘント欲スルニ際シ二十九番ノ修正說ヲ提出セルニ會フ是レ實ニ吾心ヲ獲タル者ナレハ喜テ之ヲ賛成ス且其財物ナル文字ヲ加フル如キ改定律例第二百七十二條ノ母錢ヲ貸與シ云云ニ照應シ尤モ宜キヲ得タリトス即チ家屋財物ノ如キ主要ナル者ヲ舉ケ其他ハ博徒ノ使役ヲ執ルモ警察官ノ動靜ヲ報スルモ總テ幫助ノ文字ヲ以テ之ヲ網羅スルコトヲ得ヘシ

○議長 二十九番ノ修正說ハ賛成者アリ問題ト爲ス

○三十八番^{楠本 正隆} 本官モ修正說ヲ有セシカ遂ニ發言ノ機ヲ失セリ今ヤ二十九番ノ修正說正ニ問題ト爲リ其趣旨敢テ不可ナル無キニ似タレトモ少シク心ニ安ンセサル有ルヲ以テ之ニ同意スル能ハス若シ問題ノ如ク財物ナル文字ヲ加フルトキハ情ヲ知テ貸與スルト情

ヲ知ラスシテ貸與スルトヲ問ハス均シク本案ノ處罰スル所ト爲ラ
 シ且此法案タル刑法第二百六十條及ヒ第二百六十一條ノ明文ハ暫
 ク之ヲ高閣ニ東ネ其處分ハ舉テ行政警察ニ屬シ刑法ニハ唯僅ニ賭
 博ノ二字ノ存スルノミ然ルニ賭博ノ事ノ如キ今日商業其他ノ競争
 社會ニ於テハ之ニ類似スル者勝テ數フ可ラス故ニ行政官ハ必ス其
 賭博ト稱スル者ノ界限ニ苦シムヤ知ル可シ若シ此限界明白ナラサ
 レハ其處置各自ノ意思ニ出テ法律ノ精神ヲ傷クル無キヲ保セス故
 ニ本官ハ現問題若シ消滅ニ歸セハ別ニ修正說ヲ提出セントス其修
 正文ハ第一條ノ冒頭ヲ「財物ヲ賭シテ博奕ヲ爲シタル者ハ」ト爲シ而
 シテ末文ニ但書ヲ加ヘ「飲食物ヲ賭スル者ハ此限ニアラスト爲スニ
 在リ是レ蓋シ刑法ノ兩條ヲ高閣ニ束子ンヨリハ寧ロ其精神ヲ本案

ニ移スニ如カスト爲スニ外ナラス此ニ修正ノ意見ヲ豫陳シ以テ各
 議官ノ參考ニ供ス

○十九番^{上杉茂憲} 本官ハ第一讀會ニ於テ本案ヲ是認セリ今ヤ二十九番
 ノ動議ヲ熟考スルニ其精神ハ同感ナレトモ文字少シク穩當ナラサ
 ルヲ以テ之ニ同意スルヲ得ス蓋シ家屋ヲ貸與スルモ財物ヲ貸與ス
 ルモ同シテ賭博ヲ幫助スル者ニシテ即チ幫助ノ文字ニ包含スレハ
 ナリ因テ本官モ現問題消滅セハ別ニ修正說ヲ提出セントス其修正
 文ハ「家屋云云」以下ノ文字ヲ削リ總テ幫助ヲ爲シタル者亦同シノ
 字句ヲ以テ之ニ換ル是ナリ

○二十九番^{渡邊清} 三番ハ本官ノ動議ヲ賛成シテ問題ト爲ラシメ且其
 意見ヲ詳陳シ以テ大ニ本官ニ満足ヲ與ヘタリ然ルニ十九番ハ財物

ナル文字ヲ嫌フ爲メニ同意セサル者ノ如シ何ノ故ニ之ヲ嫌フ歟本官其意ヲ解スル能ハス元來本案ハ賭博ヲ爲ス者ハ言ヲ俟タス之ヲ幫助スル者モ亦皆處罰スルニ在レトモ其幫助ノ尤モ重キ者ヲ掲クルハ法文ノ宜ク然ルヘキ所トス原案ニハ財物ナル文字ナケレトモ彼ノ土臺貸ナル者ハ常ニ重利ノ金圓ヲ貸付シテ賭事ヲ誘導シ若シ償還ヲ怠レハ直チニ其證書ヲ把テ裁判所ニ訴ル如キ之ヲ家屋ヲ貸與スルニ比スレハ尤モ惡ム可キナリ故ニ財物ナル文字ヲ插入シ以テ土臺貸ヲ爲ス者ヲモ包括セント欲スルナリ十九番ノ修正文ノ如ク單ニ幫助ト爲ストキハ何事ヲ幫助スル歟之カ解釋ニ苦マントス又某議官ハ刑法ノ精神ヲ本案ニ移シ飲食物ヲ賭スル者ハ此限ニアラスト爲スノ修正說ヲ豫陳セルモ是レ本案ノ精神ヲ害スルノ甚キ

者トス何トナレハ近來ハ清酒幾升幾石ノ名義ヲ以テシ或ハ菓物煎餅等ヲ以テシテ駒牌ニ代用スルノ類少ナカラサレハナリ本官ノ動議ヲ主持スル爲メニ聊カ前辨ヲ補フ

○十九番

上杉茂憲

本官ノ陳述ノ明瞭ナラサルニ因ル歟二十九番ハ之ヲ

領會セサルニ似タリ故ニ重複ヲ顧ミス再辨セン本官ノ豫陳セル修正文ハ總テ賭博ノ幫助ヲ爲シタル者ハト云フニ在リ斯ノ如クシテ始メテ財物家屋又ハ等ノ文字ヲ要セサルヲ了知スルヲ得ン

○十五番

柴原和

現問題ニハ同意スルヲ得ス若シ財物ヲ貸與シタル者

ハト云フトキハ博奕ノ資本トシテ貸與シタル者ヲ罰スルハ當然ナレトモ情ヲ知ラスシテ貸與シタル者モ共ニ罰セラルル無キヲ保セス三番ハ改定律例第二百七十二條ノ母錢云云ヲ引用シテ賛成セル

モ其母錢ト稱スルハ賭博ノ資本トシテ貸與シ以テ重利ヲ收ムル者ニシテ一人一己ノ爲メニ貸與スルニ非ス故ニ現問題ノ場合ニ適應セサル論說ト謂ハサルヲ得ス本官嘗テ博奕ノ流行セル地方ニ在職シタルヲ以テ彼徒ノ實況ヲ詳知セリ凡ソ賭博ノ爲メニ家屋ヲ貸與スルヤ家主ハ俗ニ寺ト稱シテ骨牌ナラハ一回ニ二圓乃至三圓骰子ナラハ一順ニ幾圓幾錢ノ額ヲ定メ輸贏ノ決スル毎ニ之ヲ收ム見張ヲ爲ス者モ多少ノ金圓ヲ受テ使役セラルルナレハ皆是レ賭博ノ幫助者タル明白ニシテ財物ヲ貸與スル者ノ區別ノ明白ナラサル如キニ非ス十九番ハ自己ノ修正說ヲ豫陳シテ第一項ノ「家屋云云」以下ノ文字ヲ刪リ總テ賭博ノ幫助ヲ爲ス者ハ云云ト爲サント云ヘリ本官ヲ以テ之ヲ觀レハ本案ノ精神ハ第一項ニ在ラスシテ第二項ニ在

リ看ヨ第二項ハ刑法第二百六十條ニ當ルヲ以テ其罰重ク第一項ハ第二百六十一條ニ當リ良家子弟等ノ誘惑セラレテ賭博ヲ爲ス者ナレハ其罰輕キコトヲ第一項ノ事ハ敢テ望慮スルヲ要セス因テ本官ハ現問題及ヒ十九番ノ修正說ヲ否認シ三十八番ノ豫陳說ヲ是認ス蓋シ新律綱領并ニ刑法等皆其行文ノ冒頭ニ於テ財物ヲ賭シ云云ト言ヘリ本案モ亦宜ク之ニ倣フヘキナリ某議官ハ本案ニ因テ刑法第二百六十條第二百六十一條ヲ廢止セリト看做スト云フモ本官ハ廢止スルニ非スシテ中止スル者ト信ス又二十九番ハ清酒若クハ菓物ヲ以テ賭具ニ代用スト云ヘルモ是レ其一ヲ知テ其二ヲ知ラサル論說ト謂フ可シ彼ノ眞ノ博徒ナル者ハ碁石其他何様ノ物品ヲ以テ賭具ニ代用スルモ又ハ貸借證書ヲ以テスルモ之カ目的ト爲ス所ハ金

錢ヲ授受スルニ外ナラス且其賭場ヲ開張スルモ決シテ飲食物ヲ以テスル有ラス若シ果シテ二十九番ノ説ノ如クハ開歲ニ婦女子ノ双六ヲ翫フ如キノ遊戯モ恐クハ本案ノ範圍内ニ於テ處斷セララルル無キヲ保セス地方長官及ヒ警部等ニ在テハ素ヨリ眞ノ賭博ト然ラサルトヲ知ル可キモ十圓ニ充サル薄給ヲ受ル巡査若クハ探偵掛ノ如キハ往往本案ノ旨趣ヲ解セス或ハ之ヲ解スルモ怨恨報復ノ爲メニ第三條ニ據テ押拿スル如キノ虞ナシトセス因テ本官ハ現問題消滅シ三十八番ノ修正説ヲ提出スルニ會セハ輒チ之ヲ賛成セント欲スルナリ

○三十九番 津田眞道

本官ハ既ニ原案ヲ賛成セリ二十九番ノ修正説ハ不可ナル無レトモ原案モ等ノ字ヲ以テ包括セルナレハ敢テ修正スル

ヲ要セス元來本案ノ主眼ハ第二項ニ存ス蓋シ歐洲各國ノ法律ニ博徒ト稱スルハ恒産ヲ有セサル遊惰ノ人民即チ我邦ノ俗ニゴロツキト目スル者ト同クシテ彼ノ群馬山梨等ノ地方ニ於テ專ラ賭博ヲ生業ト爲シ四隣ニ横行スル者ト異ナリ是レ歐洲ノ法律ニ倣ヘル現刑法ヲ中止シ特ニ本案ノ發布ヲ要スル所以ナラン二十九番ハ本案ヲ發布スル以前ニ地方官先ツ之カ警備ヲ爲ササル可ラスト云フモ本官ハ其警備ハ業已ニ整ヘリト信ス何トナレハ内務卿ハ向ニ地方長官ヲ召集シテ之カ諮問會ヲ開キタレハナリ假令警備未タ整ハサルモ二十九番ノ云フ如ク憂慮スルヲ須ヒス但シ秦始皇ノ儒ヲ坑ニセシ如ク悉ク驅テ撲殺セント欲スルナラハ或ハ一二小隊ノ兵士ヲ勞スル無キヲ知ラサレトモ本案ハ彼徒ノ巨魁タル者ヲ驅除シテ目下

ノ弊害ヲ矯正スルニ在レハ何ソ特ニ豫メ鎮臺ニ請求スル如キノ警備ヲ之レ要センヤ因テ本案ハ明日ヲ以テ發布スルモ支障ヲ見ル無キヲ信ス二十九番ノ老婆心ハ嘉ミス可キモ強テ修正ヲ加フルノ緊要ヲ見サルナリ

○四十番 洪基 現問題ノ幫助ノ文字ヲ加ヘテ悉ク包括セントスルハ可ナレトモ財物ノ文字ヲ加フルハ不可ナリ何トナレハ財物ナル語辭ハ其區域甚タ廣濶ニシテ之カ界限ヲ定ムルノ極メテ難事タレハナリ三十八番ノ豫陳セル冒頭ニ財物ノ文字ヲ置ントスル修正ハ佳ナルモ飲食物ヲ賭スルハ此限ニアラストノ但書ヲ加ヘントスルハ未タシ蓋シ近來多ク飲食物ヲ以テ賭博ヲ闘ハスノ弊害ヲモ矯正セントスル本案ノ活動力ヲ失ハシムルヲ以テナリ若シ之ヲ修正セン

トナラハ別ニ穩當ナル文字ノ在ル有ラン

出席

四十六番

關口 隆吉

○三十一番 林友幸

本官ハ現問題ニ同意セス凡ソ財物ト云ヘハ其區域甚タ廣泛ニ失シ若シ三井銀行ヨリ金圓ヲ借テ之ヲ賭博ニ使用セル者アラハ三井銀行モ俱ニ處罰セラル可ク世間豈此ノ如キ道理アラシヤ元來本官ハ原案ニ對シ廢棄說ヲ有ス何トナレハ是レ其本ヲ治メスシテ徒ヲニ其末ヲ制セントスル法案ニシテ譬ヘハ人ノ在ラサルヲ窺ヒ先ツ米ヲ盜メル犬ハ脱免シ後ニ糠ヲ舂ル犬ノ撲撃ニ遇フニ均シケレハナリ況ヤ第三條ノ如キハ豫測ス可ラサル弊害ヲ惹起スルノ恐れ無キ能ハサルヲヤ是レ本官ノ本案ヲ廢棄セント欲スル所以ナリ

○三十二番 三浦安

二十九番ノ動議ハ其趣意ニ於テハ同感ナレトモ未
 タ遠ニ之ヲ賛成スルヲ得ス其故何ソヤ財物ノ文字アルヲ以テナリ
 抑モ財物ノ文字ハ管ニ其區域ノ廣濶ナルノミナラス田舎間ニ在テ
 ハ強迫ヲ受ルヨリシテ貸與スル者モ有ラン此等ハ固ヨリ本犯ト共
 ニ處罰ス可キニ非ス彼ノ新律綱領ノ母錢ヲ黨類ニ貸與シテ利子ヲ
 收ムル者ノ如キ始メテ之ヲ處罰ス可キナリ故ニ「等」ノ字ヲ以テ包
 括センヨリハ寧ロ幫助ノ字ヲ以テ明示スルノ可ナルニ似タレトモ
 奈何セン財物ノ字ヲ伴フ爲メニ現問題ニ同意スルヲ得サルヲ十九
 番ノ豫陳セル修正ハ家屋等ノ文字ヲモ削除セントスルニ在テ甚々
 其當ヲ得ス是レ宜ク原案ノ如ク家屋ヲ貸與シノ文字ヲ掲ケテ以テ
 一例ヲ示スヘキナリ二十九番若シ今ニシテ財物ノ文字ヲ除キ改メ

テ修正説ヲ提出スルナラハ本官喜テ賛成セントス

○番一 尾崎三良

二十九番ノ動議ハ問題ト爲レリ參事院ニ於テモ此法
 案ヲ調査スルニ當リ財物ノ文字ヲ插入シ又幫助ノ文字ヲ添加セシ
 コト有リシモ財物ノ文字ハ某議官ノ云ヘル如キ支障ヲ生シ幫助ノ
 文字ハ行文ニ妥貼セス爲メニ遂ニ此等ノ文字ヲ刪去シ家屋ヲ貸與
 スルト見張ヲ爲ストノ主要ナル二者ヲ掲ケ其他ハ之ニ亞クヲ以テ
 「等」ノ字ニ包含セシメタリ「等」ノ字ヲ用ヒタル例ハ刑法等ニハ之レ
 有ラサルモ本案ハ行政處分ニ屬スル規則ナレハ其處置ニ支障スル
 無シ願クハ原案ノ如ク議決センコトヲ

○八番 伊丹重賢

本官ハ三十二番ト同感ニシテ現問題ニハ半ハ同意スル
 モ半ハ同意スルヲ得ス或ル議官ハ第一項ハ輕ク第二項ハ重シト云

ヘリ本官ハ第一項ト雖モ本案ノ全體ヨリ之ヲ觀レハ敢テ輕視ス可
キニ非ス唯其罰ニ輕重ヲ存スルノミ現問題ノ如ク財物ノ文字ヲ揭
クルトキハ賭博ノ資本トシテ貸與スルト否ヲサルトヲ問ハス同シ
ク處罰セラル可シ因テ本官ハ現問題ノ修正文ヲ兩段ニ分チテ取決
センコトヲ建議ス

○議長 八番ノ建議ハ二十九番ノ修正文ヲ兩回ニ取決セント欲スル
ニ在リ之ヲ衆議ニ問ン其建議ニ同意者ハ起立セヨ

起立者七人

○議長 少數ナルヲ以テ八番ノ建議ハ消滅ス

○議長 他ニ發議ナキヲ以テ二十九番ノ動議ノ決ヲ取ン其修正ヲ可
トスル者ハ起立セヨ

起立者二人

○議長 少數ナルヲ以テ二十九番ノ修正說ハ消滅ス

○七番 鍋島直彬 本官ハ聊カ字句ヲ修正シテ以テ本案ノ意義ヲ明瞭ナラ

シメント欲ス其修正ハ本文ノ「等」ノ字ヲ削リ「見張ヲ爲シ」ノ下ニ其
他總テ幫助ヲ爲シノ字句ヲ加フルニ在リ夫レ「等」ノ字ハ已ニ議場

ノ不是ト認ムル所ニシテ本案ノ如キ罰則ニ掲ク可キ字面ニ非ス而

シテ幫助ノ文字ハ刑法第一編第八章第二節第百九條ニ正犯ヲ幫助
シ云云ト見ユ故ニ本案モ之ニ倣ヒ「等」ニ換ルニ幫助ヲ以テセント

ス内閣委員ハ財物ノ文字ハ支障ヲ來スト辨排スレトモ幫助ノ文字
ハ唯其行文ニ妥貼セスト云フニ止マリ敢テ不可ト爲スヲ聞カス本

官ノ二十九番ノ修正ニ同意セサリシハ財物ナル文字ノ其範圍ヲ限

定スルニ難キト見張ナル文字ヲ刪レルトニ是レ由ル願クハ本官ノ

動議ノ問題ト爲リ多數ノ同意者ヲ得テ之ニ可決センコトヲ

○二十九番 渡邊清 本官ノ修正説ハ同意者少數ニシテ消滅セシヲ憾ミ

シニ七番ノ修正説ヲ提出セルニ會フ其趣意タル本官ノ動議ト精神
ヲ異ニセサルヲ以テ之ヲ賛成ス

○十九番 上杉茂憲 本官ハ二十九番ノ修正説消滅セハ別ニ修正説ヲ提出

セント豫陳シタレトモ七番ノ修正文ハ本官ノ豫陳セル者ヨリモ稍

ヤ可ナルヲ覺フ因テ前言ヲ收銷シ改メテ七番ヲ賛成ス

○議長 七番ノ修正文ハ見張ヲ爲シ其他總テ幫助ヲ爲シタル者亦同

シト爲スニ在ル歟

○七番 鍋島直彬 然リ

○議長 七番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○四十番 渡邊洪基 七番ノ修正説ハ原案ニ比スレハ少シク可ナル如クナ

レトモ本官ハ之ニ同意スルヲ得ス賭博幫助ノ主要ナル者ヲ云ハハ

二十九番ノ陳述セル土臺貸ヲ爲ス者ノ如キハ見張ヲ爲ス者ヨリモ

重キヤ知ル可シ然ルニ見張ノ文字ヲ存シ却テ土臺貸ノ如キ者ヲ幫

助ノ文字ニ包含セシメントスルハ當ヲ得ス因テ本官ハ見張ノ文字

ヲ削リ別ニ刑法ノ行文ニ倣ヒ財物ヲ賭シテ博奕ヲ爲シタル者ハ云

云過料ニ處スノ下ニ房屋ヲ給與シ其他幫助ヲ爲シタル者亦同シト

爲サントスル意見ヲ蓄フルヲ以テ現問題ニ同意セス

○七番 鍋島直彬 四十番ハ見張ノ文字ヲ存スルヲ以テ本官ノ修正ニ同意

セサルコトヲ陳述セリ然ルニ原案ニ見張ノ文字ヲ特掲セルヲ察ス

ルニ見張者ハ警察官ノ動靜ヲ窺フテ彼ノ徒ニ報道シ以テ押拿ヲ免
 レシメ而シテ往往警察上ニ支障ヲ與フル幫助中ノ主要ナル者ト爲
 ス是レ本官ノ本案ノ目的ハ刑法第四百六十條及ヒ第四百六十一條
 ヲ中止シ時勢已ムヲ得サルヨリシテ一時便法ヲ設ルニ在ル内閣起
 草ノ精神ヲ推知シテ以テ見張ノ文字ヲ削ラサル所以ナリ又四十番
 ハ財物ヲ賭シテ博奕ヲ爲シタル者ハ云云ト爲サント説クモ賭博ト
 云ヘハ財物ヲ包含スルヲ以テ特ニ財物ヲ賭シ云云ト贅言スルヲ要
 セス之ヲ要スルニ本官ノ修正ノ意義ハ毫モ四十番ノ意見ト異ナラ
 サレハ一步ヲ讓リテ現問題ニ同意センコトヲ望ム

○三十八番楠本正隆 本官ノ修正説ヲ提出セント豫陳シ而シテ二十九番
 ノ動議ニ同意セサリシハ財物ノ文字ヲ嫌ヘル爲メナリ今ヤ七番ノ

修正ハ此文字ヲ去リ且本官ノ豫陳説ハ第三讀會ノ餘地アルヲ以テ

先ツ現問題ヲ是認シテ之ニ起立セントス

○二十番大島圭介 現問題ハ二十九番ノ修正説ヨリハ可ナル如クナレト

モ本官之ニ同意スルヲ得ス何トナレハ其行文中ノ總テノ二字妥當

ナラサレハナリ或ハ原案ノ「等」ノ字ヲ以テ包括スルモ可ナレトモ

本官ハ現問題消滅セハ總テノ二字ヲ除去セル動議ヲ提出セントス

○三十六番神田孝平 現問題ヲ賛成ス

○三十二番三浦安 現問題ハ財物ノ文字ヲ去レルヲ以テ本官モ之ヲ賛

成ス

○議長 七番ノ修正ニ同意者ハ起立セヨ

起立者十五人

○議長 多數ナルヲ以テ七番ノ修正ニ決シ次項ニ移ル

書記官

森山茂

朗讀

博徒ニシテ黨類ヲ招結シ又ハ賭場ヲ開張シ又ハ兇器ヲ携帯シ又ハ四隣ニ横行スル者ハ一年以上十年以下ノ懲罰及ヒ五十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス其招結ニ應シタル者ハ賭博ヲ爲サスト雖モ前項ニ依テ處分ス

○二十九番

渡邊清

本項ハ修正ニ苦メトモ到底原案ニテハ不可ナリ四

隣横行ノ文字タル甚タ茫漠ニシテ憑據スル所ヲ知ル可ラス平素賭博ニ耽ル車夫馬丁輩ノ喰逃飲逃等ノ所爲モ亦此中ニ包含シ一年以上十年以下ノ懲罰五十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處セラル、如キ豈其レ之ヲ適當ノ處罰ト謂フヲ得ンヤ立案者ハ親分ハ自ラ賭場ヲ

開張スル者ト看テ新律綱領ニ據リ「賭場ヲ開張シ云云」ト爲セルケル可キモ親分ハ賭場ニ臨マス子分ノ中ニ於テ兄分ト稱スル者之カ場主ト爲リ良家ノ子弟ヲ誘引シテ賭博ヲ闘ハシ而シテ親分ハ唯駒牌ヲ貸與シ賭事終レハ駒牌ニ若干金圓ヲ附シテ還致セシムルノミ然ルニ親分ハ其場ニ臨マサルモ別席ニ潛ミ良家ノ子弟ヲシテ一旦勝利ヲ啗ハシメ時會ヲ量リテ俗ニイカサマト稱スル設機ノ骰子骨牌ヲ使用シテ彼レノ囊金ヲ攫取スル指揮ヲ爲ス故ニ本案ノ如ク賭場ヲ開張シト云フトキハ此輩ヲ網羅スルヲ得ス宜ク「開張」ヲ指揮ニ改メ「又ハ四隣ニ横行スル」ヲ其他脅暴ノ所行ヲ爲シタルニ換フヘシ願クハ賛成ヲ得テ問題ト爲ランコトヲ

○議長 二十九番ノ修正説ハ賛成者ナキヲ以テ消滅ス

○議長 他ニ發議ナキヲ以テ取決セン本項ヲ可トスル者ハ起立セヨ
起立者二十四人

○議長 多數ナルヲ以テ本項ヲ可決シ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第二條 賭具及ヒ賭場ニ現存スル財物ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ
没入ス

○議長 發議ナケレハ取決セン本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本條ヲ可決シ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第三條 賭博犯ヲ取押フルニハ何人ノ家宅ヲ問ハス何時タリトモ

之ニ立入ルコトヲ得

○三十二番 三浦安 本條ハ第一讀會ニ陳述セル如ク原案ニテモ可ナレ

トモ更ニ考フルニ行政警察官ノ何人ノ家宅ヲ問ハス之ニ立入ルコ
トヲ定ムル條款ナレハ若シ原案ノ如クスルヤ或ハ盜賊匪徒ノ假裝
シテ警察官ト偽リ以テ人家ニ立入ル無キヲ保セス因テ彼ノ酒造稅
則等ニ關シ犯則ノ證憑取調處分法案ノ文例ニ倣ヒ本文ニ但警察官
巡○查○ハ○其○證○票○ヲ○携○帶○ス○ヘ○シ○ノ○十○六○字○ヲ○加○ヘ○ン○ト○欲○ス○其○證○憑○ハ○第○四
條ノ方法細則ノ中ニ於テ各地方官ニ之ヲ製ラシメ以テ真正ノ警察
官タルコトヲ確認スレハ足ル可シ

○二十九番 渡邊清 三十二番ノ修正說ヲ賛成セント欲スレトモ少シク

字句ノ足ラサル有ルヲ惜ム然レトモ本官ノ意見ハ第三讀會ニ讓リ

今先ツ三十二番ノ修正説ヲ賛成ス蓋シ本條ハ治罪法ノ要點ヲ打破スル者ニシテ此ノ證票ハ彼ノ令狀ト均シケレハナリ

○議長 三十二番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○三番箕作 麟祥 現問題ヲ賛成ス本官ハ初メ原案ヲ賛成シタレトモ其刑

法治罪法ノ原則ニ反對スル者少ナシトセス即チ本條ノ如キ治罪法ノ權衡ヨリ之ヲ觀レハ何人ノ家宅ヲ間ハス何時タリトモ立入ルヲ得ルト爲スハ緊嚴ナル變法ナリ若シ原案ノ如クセハ三十二番モ云ヘル如ク或ハ村里間ニ於テハ不良ノ徒ノ警察官ト偽稱シ夜ニ乘シテ豪農巨商ノ家宅ニ到リ公然門戸ヲ開カシメテ掠奪ヲ恣ニシ博徒ヲ懲治スルノ法ハ反テ良民ヲ損害スルノ具ト爲ル無キヲ保セス因テ警察官ヲシテ證票ヲ携帶セシメ家宅ニ立入ルニ當リ主人ノ求メ

有ラハ之ヲ出示シ真正ノ警察官タルヲ知ラシムルヲ得タリトス但シ第四百十四號議案ニ證票ノ文字アリシモ證票ハ物品ニ非ス書牌ナレハ適當ナル文字トハ謂フ可ラス若シ他ニ之ニ換ユル好文字ノ在ル有ラハ尙ホ之ニ同意セントス

○議長 發議盡キタリト認ム三十二番ノ修正ニ同意者ハ起立セヨ
起立者十七人

○議長 多數ナルヲ以テ三十二番ノ修正説ニ決ス

○四十二番宮本 小一 第三條ト第四條トノ間ニ一項ヲ加ント欲ス

○議長 第三條ハ已ニ決了セリ故ニ項ヲ加ルヲ得ス新タニ條ヲ設クルハ可ナリ若シ第三條ニ加ヘントナラハ第三讀會ニ於テセヨ

○四十二番宮本 小一 然ラハ新タニ一條ヲ設ケン

○議長 新タニ第四條ヲ置キ原案第四條ヲ第五條ト爲スニ在レハ可
ナリ

○四十二番宮本 本官ノ第四條ヲ新設セントスルハ蓋シ第三條ニ何
人ノ家宅ヲ間ハス何時タリトモ之ニ立入ルコトヲ得ト言ヘルハ外
國人ニ關涉スル杞憂アレハナリ夫レ外國人ハ治外法權ニ據リ我カ
國人ト雖モ公使館ニ雇使セラルレハ犯罪アルモ直チニ館内ニ立入
リテ逮捕スルヲ得ス況ヤ外國人ヲヤ然ルニ第三條ノミニテハ警察
官ノ犯人ヲ押拿スルニ熱心セルヨリシテ或ハ館内ニ立入ル無シト
セス近時長崎港外國人居留地ニ於テ阿片烟犯ノ支那人ヲ押拿セン
トシテ一場ノ重大事件ヲ惹起シ又往年東京府下ニ於テ巡查ノ英國
公使館ニ闖入セシヨリ大葛藤ヲ生シ獨リ英國公使ノミナラス他ノ

公使モ我カ政府ノ處置ヲ論難セリ此時我カ政府ハ爲メニ司法警察
規則附録トシテ明治七年九月第百二十八號達即チ輪廓ヲ附セシ公
達ヲ以テ使府縣ニ告示セル所アリ巡查等ハ善ク此規則ヲ了知ス可
キモ本案ヲ發布セハ我カ國人ニシテ外國公使館ニ雇使セラル、車
夫馬丁ノ如キ其賭博ヲ爲スニ當テハ之ヲ押拿スルモ可ナリト思惟
シ或ハ館内ニ闖入スル無キヲ保セス因テ鄭重ニ鄭重ヲ加ヘ第三條
ノ次後ニ一條ヲ新設セント欲スルナリ其新設ノ一條ハ即チ第四條
明治七年九月太政官第百二十八號達ノ場合ハ此限ニアラスト爲ス
是ナリ願クハ賛成者ヲ得テ議場ノ問題ト爲ランコトヲ

○議長 四十二番ノ動議ハ賛成者ナキヲ以テ消滅ス

書記官 森山 朗讀

第四條

此規則ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事東京府ヲ除ク縣

令ニ於テ便宜之ヲ定メ内務卿ノ許可ヲ得テ施行スルコトヲ得

○二十九番渡邊清 本條ニ瑣細ナル修正ヲ加ヘン其修正ハ結文ノ得ノ

字ノ下ニヘシノ二字ヲ加フルニ在リ蓋シ本文ノ如クナレハ施行ス

ルモ施行セサルモ可ナル如キノ嫌ヒ有レハナリ因テ之ヲ修正シテ

命令文ト爲スヲ可トス

○三十八番楠本正隆 賛成

○議長 二十九番ノ動議ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○十五番柴原和 本官モ現問題ヲ是認ス發議者モ述ル如ク施行セサル

モ可ナル如キノ嫌ヒ有レハナリ本官ハ内務卿ノ許可ヲ得ヘシト爲

シ而シテ「施行スルコトヲ得」ノ文字ハ要用ナラサレハ之ヲ削リテ

可ナリト信スレトモ今先ツ現問題ニ同意ス

○四十番渡邊洪基 十五番ハ「施行云云」ノ文字ヲ要用ナラスト云フモ上

段ノ「施行云云」ノ文字ハ之ヲ削ルコトヲ得サル可シ

○議長 二十九番ノ修正ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者十二人

○議長 少數ナルヲ以テ二十九番ノ修正説ハ消滅ス

○十五番柴原和 本條ノ精神ハ可ナルモ行文ハ其宜キヲ得ス故ニ本官

ハ得隴望蜀ノ念ヨリシテ更ニ修正説ヲ提出ス本文上段ニ施行ノ文

字アレハ末段ノ施行ノ文字ハ要用ナラス故ニ之ヲ修正シテ内務卿

ノ許可ヲ得ヘシト爲シ以テ「施行スルコトヲ得」ノ文字ヲ刪去セン

○二十九番渡邊清 賛成

○議長 十五番ノ修正説ハ賛成者アリ問題ト爲ス

○三番箕作麟祥 十五番ノ修正モ敢テ不可ナリトハ看サレトモ本官ハ原

案ニテ可ナリト信スルヲ以テ之ニ起立スルヲ得ス若シ修正セント
ナラハ許可ヲ受クヘシト爲スノ優レルニ如カスト思惟スルモ強テ
修正ヲ加フルヲ要セサラン

○議長 十五番ノ動議ニ同意者ハ起立セヨ

起立者七人

○議長 少數ナルヲ以テ十五番ノ修正説ハ消滅ス

○議長 他ニ發議ナキヲ以テ本條ヲ可決シ此ニ第二讀會ヲ了ル

○外番二番黒田綱彦 本案ハ本年内ニ發布スルヲ要スレハ本日直ニ第三讀

會ヲ開カンコトヲ建議ス

○議長 午後ニ第三讀會ヲ開カン時已ニ正午ヲ過キタレハ一旦散會

○セヨ

○午後零時二十五分散會

午後第一時二十分開場

○十三番退席 二十六番 關口 隆吉

○十四番同 二十九番 渡邊 清

○十五番同 三十番 伊集院兼寛

○十六番同 三十八番 楠本 正隆

○議長 第四百十九號議案ノ第三讀會ヲ開ク

書記官 森山茂 朗讀

布告案

賭博犯ノ儀ハ刑法第二百六十條第二百六十一條ニ明文有之候ヘトモ當分ノ内行政警察ノ處分ニ屬シ東京ハ警視廳其他ハ地方官ヲシテ別紙賭博犯處分規則ニ依リ取締懲罰ノ事ヲ行ハシム
右奉 勅旨布告候事

○四十三番 田邊 太一 布告案ニ些少ノ修正ヲ加ヘン即チ屬ノ字ヲ付ニ改ムル是ナリ屬ノ字ヲ用フレハ語意穩當ナラス故ニ行政警察ノ處分ニ付シト爲サントスルナリ

○四十番 渡邊 洪基 賛成

○三十六番 神田 孝平 賛成

○三十一番 林友 幸 賛成

○七番 鍋島 直彬 賛成

○三十九番 津田 眞道 賛成

○議長 四十三番ノ動議ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○外一番 尾崎 三良 屬ノ字ヲ付ト改ムルハ意義ニ於テ異ナラサル如キモ却テ妥當ナラサルヲ覺フ何トナレハ是レ賭博犯ハ當分ノ内行政警察ノ處分ニ歸スルト云フノ意義ナレハナリ

○四十番 渡邊 洪基 是レ瑣事ナレトモ一言セサルヲ得ス看ヨ本案ノ末文ニ懲罰ノ事ヲ行ハシムト言ヘルヲ行政警察ノ處分ニ付シ云云懲罰

ノ事ヲ行ハシムト爲サハ文意自ラ貫徹セン且屬ノ字ハ雅馴ナルニ似タレトモ其意義ハ付ノ字ヨリモ輕シトス付ニ改ムルニ如カス

○三十二番 三浦 安 現問題ニハ同意セス屬ト付トノ兩字ハ意義ニ輕重

○アルヤヲ知ラサレトモ本官ハ其意義ヲ異ニセスト思考ス原案ニテ可ナリ

○四十三番 田邊 太一 四十番議官モ云フ如ク其行文タル處分ニ付シテ行

ハシムト爲ルトキハ意義一層瞭然タラン且屬ノ字ハ多ク性質ニ係

ル場合ニ用ヒ此ヲ彼ニ移ス等ノ場合ニハ用ヒサルカ如シ

○三十九番 津田 眞道 強テ論辨ヲ要セサレトモ試ニ一例ヲ舉レハ内閣ノ

議案ヲ本院ニ下付スルニ當リ大臣ノ通牒文ニ其院議定ニ付セラレ

候事ト書スルトモ議定ニ屬セラレ候事トハ書セス因テ問題ノ如ク

スルヲ穩安ナリトス

○議長 四十三番ノ修正ヲ可トスル者ハ起立セヨ

○起立者六人

○議長 少數ナルヲ以テ四十三番ノ修正説ハ消滅ス

○議長 他ニ發議ナキヲ以テ本案ヲ可決シ次條ニ移ル

○書記官 森山 茂 朗讀

賭博犯處分規則

第一條 賭博ヲ爲シタル者ハ一月以上四年以下ノ懲罰及ヒ五圓以

上二百圓以下ノ過料ニ處ス家屋ヲ貸與シ及ヒ見張其他總テ補助ヲ爲シヲ爲シタル者

○等亦同シ

○議長 本項ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者二十三人

○議長 多數ナルヲ以テ本項ヲ可決シ次項ニ移ル

書記官 森山 茂 朗讀

博徒ニシテ黨類ヲ招結シ又ハ賭場ヲ開張シ又ハ兇器ヲ携帯シ又ハ四隣ニ横行スル者ハ一年以上十年以下ノ懲罰及ヒ五十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス其招結ニ應シタル者ハ賭博ヲ爲サスト雖モ前項ニ依テ處分ス

○議長 發議ナキヲ以テ本項ヲ可決シ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第二條 賭具及ヒ賭場ニ現存スル財物ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒入ス

○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可決シ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第三條 賭博犯ヲ取押フルニハ何人ノ家宅ヲ問ハス何時タリトモ

之ニ立入ルコトヲ得 但警察官巡查ハ其證票ヲ携帯スヘシ

○議長 本條ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者二十人

○議長 多數ナルヲ以テ本條ヲ可決シ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第四條 此規則ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事東京府縣ヲ除ク令ニ於テ便宜之ヲ定メ内務卿ノ許可ヲ得テ施行スルコトヲ得

○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可決シ此ニ第三讀會ヲ了ル例ニ從ヒ

上奏セン本日ハ散會セヨ

午後第一時三十分閉場

第六百二十號議案
 中山道鐵道公價證第一第二第三讀會
 議長 佐野 常民
 出席議官
 二番 細川潤次郎
 三番 箕作 麟祥
 四番 野村 素介
 七番 鍋島 直彬
 八番 伊丹 重賢
 九番 東久世通禧
 十一番 樺村 正直

元老院會議筆記 明治十六年十二月二十六日

禁傍聽

○第四百二十號議案 中山道鐵道公價證第一第二第三讀會

書條例制定ノ儀

議長 佐野 常民

出席議官

- 二番 細川潤次郎
- 三番 箕作 麟祥
- 四番 野村 素介
- 七番 鍋島 直彬
- 八番 伊丹 重賢
- 九番 東久世通禧
- 十一番 樺村 正直

十三番 西村 貞陽

十四番 稅所 篤

十五番 柴原 和

十八番 西 周

十九番 上杉 茂憲

二十番 大鳥 圭介

二十一番 黑田 清綱

二十五番 鍋島 幹

二十七番 河田 景與

二十八番 大久保 一翁

二十九番 渡邊 清

○家四百二十番 鍋島 中山

鍋島 常規

出稼番 二十五番

三十一番 林 友幸

三十二番 三浦 安

三十四番 福原 實

三十五番 本田 親雄

三十六番 神田 孝平

三十八番 楠本 正隆

三十九番 津田 眞道

四十番 渡邊 洪基

四十一番 井田 讓

四十二番 官本 小一

四十三番 田邊 太一

○家四百二十番 鍋島 中山

○家四百二十番 鍋島 中山

○家四百二十番 鍋島 中山

中山 鍋島 公助 鍋島 貞次

○家四百二十番 鍋島 中山

四十五番 橋口 兼三

内閣委員 番外一番 参事院議官尾崎 三良

同 番外二番 参事院員外議官補神鞭 知常

午前第十時開場

○議長 本日ハ第四百二十號議案ノ第一讀會ヲ開ク便宜ヲ以テ朗讀
ハ布告案ノミニ止メ各條ハ之ヲ省カン各位之ヲ領セヨ

書記官 森山茂 朗讀

布告案

中山道鐵道公債證書條例左ノ通制定ス

(以下ノ各條ハ朗讀セサリシモ他日參觀ノ便ヲ圖リ此ニ之ヲ附記
ス)

中山道鐵道公債證書條例

第一條 中山道鐵道公債證書ハ群馬縣下上野國高崎ヨリ岐阜縣下
美濃國大垣ニ至ルマテ中山道ニ沿ヒ鐵道ヲ敷設シ及ヒ其事業ヲ
經營スルノ資金ニ充ツルカ爲メ發行スルモノトス

第二條 此公債證書發行高ハ貳千萬圓ヲ限リ大藏卿工業ノ都合ヲ
計リ漸次之ヲ發行スルコトヲ得其發行ノ手續ハ大藏卿時々之ヲ
定ムルモノトス

第三條 此公債證書ハ無記名利札附ニシテ千圓五百圓百圓ノ三種
トス

第四條 此公債ノ利子ハ年七分トス

第五條 此公債證書引受ノ申込高大藏卿ノ需用スル金高ヨリ超過

スルハ其超過高ニ比例シ各申込人へ對シ證書渡高ヲ減少スルモノトス但價格ヲ定メテ發行シタル場合ニ於テ其價格以上ニテ申込ム者ニハ其渡高ヲ減少セサルヘシ其價格ハ大藏卿之ヲ定ムルモノトス

第六條 此公債證書ノ見本ハ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第七條 此公債證書ノ元金ハ證書發行ノ年ヨリ五ヶ年置据其翌年ヨリ向フ二十五ヶ年ヲ限り毎年抽籤法ヲ以テ償還スヘシ但償還ノ金高ハ抽籤ノ日ヨリ少クトモ六十日以前ニ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

此公債ノ利子ハ元金償還ニ至ルマテ毎年六月十二月ノ兩度ニ拂渡スモノトス但元金ヲ償還スルトキ八月割ヲ以テ右抽籤ヲ行フ

月マテノ利子ヲ拂渡スヘシ

滿期ニ至リ償還ノ證書ニ属スル利子ハ償還ノ月マテノ分ヲ拂渡スモノトス

第八條 此公債ノ利子ハ其元金拂込ノ日ニ從ヒ各月十五日前後ヲ以テ區別シ十五日以前ナレハ其下半月分ヨリ十六日以後ナレハ其翌月分ヨリ拂渡スモノトス

第九條 此公債ノ元金償還利子拂渡ノ事務ハ總テ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ其時期及ヒ場所等ハ抽籤ノ日ヨリ少クトモ三十日以前ニ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第十條 此公債ノ利子ハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ利札ヲ切取り之ト引換ニ拂渡スヘシ

第十一條 此公債證書ハ何人ニテモ授受賣買スルコトヲ得

第十二條 此公債ノ元金償還ノトキハ日本銀行ニ於テ抽籤配賦計算ノ割合ヲ定メ東京横濱居住人ニテ此公債證書ヲ多額所持スルモノ拾名以上并大藏省國債記録兩局ノ官員五名以上立會ノ上抽籤ヲ執行シ其當籤證書ノ記號番號種類金高等ハ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第十三條 此公債證書ノ所有者其證書又ハ利札ヲ亡失セシトキハ其事由并證書面ノ金高記號番號及所有セシトキノ手續ヲ詳記シ其亡失セシ地ノ官廳ヲ經テ大藏省ニ届出ツヘシ大藏卿ハ其證書ノ授受賣買ヲ差止ムヘキ旨ヲ告示スルモノトス但發見シタルトキハ同様ノ手續ヲ以テ届出ツヘシ

亡失ノ證書ヲ發見セス其償還年限ノ末期ニ至リ證書消滅セシト認ムヘキ場合ニ於テハ該證書ノ元利金額ヲ其届出人ヘ拂渡スヘシ

第十四條 此公債證書當籤ト爲リ元金拂渡スヘキ場合ニ於テ其證書ノ亡失セシコトヲ覺知シタルトキハ其當籤ノ効ヲ失フモノトス

第十五條 此公債證書汚染又ハ毀損セシトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經テ證書ノ引換ヲ大藏省ヘ請求スヘシ但其證書面金高記號番號及大藏卿ノ印章ヲ檢査シ其真正ナルヲ證認シ得ヘキモノニアラサレハ引換サルヘシ此引換ヲ得タルモノハ本人ヨリ相當ノ手数料ヲ銀行ヘ拂フヘシ

第十六條 此公債證書引換又ハ償還ノトキ其證書汚染毀損シ金高
記號番號及大藏卿ノ印章ヲ認メ難キモノハ其元利金トモ償還方
總テ亡失證書ト同一タルヘシ

第十七條 此公債ノ元利金受取方申出テス其拂期月ヨリ滿十五ケ
年ヲ過ルトキハ一切之ヲ償還セサルヘシ

第十八條 政府ノ都合ニ依リ要用ノ事アレハ利子ノ割合及元金償
還年限ヲ除クノ外此條例ヲ増補改正スルコトアルヘシ

右奉 勅旨布告候事

○番一尾崎三良 本案ノ今日ニ要用ナルハ既ニ各位ノ領知スル所ナラ
ン故ニ敢テ喋辨ヲ要セス而モ唯一二ノ參考ニ供ス可キ者アレハ今
聊カ之ヲ陳セン抑モ政府ハ本年度ノ會計ヲ議決スルニ際シ此舉ノ

必ス無ル可ラサルヲ察知シ内議畧ホ定マリシモ今日急速ニ之ヲ施
行セントスルニハ蓋シ其故アルナリ近來商業經紀ノ活潑ナラサル
ヨリ貸借金ノ利子頓ニ低下シ富豪家モ空シク資本金ヲ懷キテ運轉
スルニ由シ無ク下等社會ノ勞役ヲ執テ生活スル者モ工事製作ノ興
ラサルヨリ自カラ備錢ヲ得ル能ハス是皆金融滯礙ノ影響ヲ被レル
ナリ政府此ニ見ル有リテ此條例ヲ發行シ以テ財源ノ流通ヲ助ケ富
者貧人共ニ其所ヲ得セシメ及ヒ中山道鐵道ヲ布設シテ大ニ殖産ノ
道ヲ開キ我國ノ富利ニ資セントス其功益ノ明著ナル素ヨリ本官等
ノ辨ヲ待タスシテ知ル可シ然リ而シテ此公債證書ト前年發行セル
起業公債證書トノ異ナル所ヲ舉レハ彼レハ内國人ノミ加入スルヲ
許セシモ此レハ内外國人ヲ問ハス加入スルヲ許スニ在リ是レ政府

カ大藏卿ノ意見ヲ聽納シ速ニ紙幣ノ價格ヲ挽回シテ硬貨通用ノ基礎ヲ定メントスル精神ニ出ツ夫レ歐洲各國ハ利子殊ニ低下ニシテ英國ハ大抵三四分ノ間ニ在リ和蘭國ノ如キハ二分五厘ニ過キスト云フ故ニ若シ吾邦ニシテ本條例ヲ外國人ニ及ホサハ彼此利益ノ差違ヨリシテ其資金ヲ本國ニ求メ以テ之レニ應スル有ラントス是レ我レ坐カラ外國ノ金銀貨ヲ誘致スル者ニシテ國家經濟ノ最モ宜キニ合スル所ナリ願クハ各位ノ其意ヲ此ニ留メ以テ速ニ議定上奏セシコトヲ

○三十二番 三浦安 内閣委員ノ説明ヲ得テ本案發行ノ旨意ヲ詳領ス此舉ニシテ一タヒ成レハ中山道鐵道ノ大利ヲ起シ傍ラ世上ノ融通ヲ助ケ以テ遂ニ紙幣償消ノ期望ヲ達セントス誰カ之ヲ良案ニ非スト

爲サンヤ本案ノ全部ヲ賛成ス

○八番 伊丹重賢 本官モ大ニ本案ヲ是認ス方今商業ノ機軸其運行活潑ナラスシテ富者ハ空シク財本ヲ懷キテ其轉用ニ困シミ賤民ハ職業備工ニ就ク能ハサルニ泣ク本案ハ實ニ此兩者ヲ拯ヒ隨テ各地方殖産ノ道ヲ開キ國家財政ノ要ヲ得セシムル者ナレハ如何ソ賛成セスシテ可ナランヤ

○三十六番 神田孝平 本案ノ主旨極メテ好シ本官喜ヒテ之ヲ賛成ス蓋シ本案ヲ實施スルトキハ地方ノ資本金ヲ中央ニ吸集スルヲ以テ幾分か地方ノ財計ニ影響ヲ及ホシ爲メニ民間小工業ノ衰退スル有ルモ知ル可ラス然レトモ一方ニ大事業ノ興ル有レハ以テ得失相償フニ足ラン且ヤ外國人ノ資本金ヲ輸入スルヨリシテ吾邦ノ經濟ニ便益

ヲ爲ス有ントス思フニ此公債ニハ内國人ヨリモ外國人ノ之ニ應スル者必ス多カラシ既ニ内國人ノミヲ以テスルモ猶ホ巨多ノ利益ヲ見ル況シテ外國人ノ之ニ加入スルヲヤ本官ハ特ニ我國鐵道ノ漸次ニ延長シ大ニ人民ノ便益ヲ享ントスルヲ怡フ

○三十一番 林友幸 政府ノ本案ヲ發行スルハ甚タ善シ本官毫モ異議ノ容ル可キ無シ殊ニ鐵道増設ノ事ノ如キハ積年來熱望スル所トス本官ハ各般ノ事業中特ニ鐵道布設ノ工業ヲ以テ最一ト爲ス因テ速ニ原案ニ決定センコトヲ望ム

○十五番 柴原和 本官モ本案ヲ賛成ス然レトモ聊カ内閣委員ノ説明ヲ請ハント欲スル者アリ本案第七條ニ依レハ此公債ノ利子ハ毎年六月ト十二月トノ兩回ニ交付スル者ト爲ス然ルニ他ノ公債ノ利子ハ

毎年五月ト十一月トノ兩回ニ交付スルヲ以テ各地方廳ハ其調査ノ爲メニ期前ヨリ公債證書ノ賣買ヲ閣止セシムルコト有リ本案ノ特ニ六月十二月ト爲セシハ其故アリテ然ルヤ

○番二番 神輿知常 十六番ノ質疑ニ答ヘン此公債證書ハ無記名ナルヲ以テ記名改換ヲ要セス蓋シ金祿公債證書ノ如キハ記名ナルヲ以テ所有者ヲ確カムル爲メニ記名改換ヲ要ス是レ彼此ノ利子交付期月ヲ異ニスル所以ナリ

○三十番 大鳥圭介 本官ハ本案ニ同意スルモ唯是レ大體ニ向テ異論ヲ唱ヘサルノミ抑モ政府ノ本案ヲ發セントスルハ一方ニハ目下世上ノ景況ヲ察シ此一大工事ヲ興シテ資本家ノ積財ヲ此ニ致サシメ一方ニハ細民ノ空手ニシテ職業ナキニ苦ム者ヲ救ハントスルニ在レト

モ本官此ニ一ノ憂慮ス可キ有ルナリ本案第四條ニ依レハ此公債證書ノ利子ハ年七分ニシテ我國ニ在テハ低下ナル看ヲ爲スモ歐米諸國ニ比スレハ最も高昂ナリトス然ルヲ七分ト確定セシハ其レ必ス因由ノ在ル有ラン本官ノ前職ニ在ルヤ鐵道ノ事務ニ從ハサリシモ嘗テ加越鐵道布設ノ請願ニ關シ我國既成鐵道ノ利益ヲ調査セシコトアリ蓋シ明治八、九年及ヒ十二、三年ノ間ハ最も金利ノ騰貴セル時ニ係リ此年度ニ於ル東京橫濱間並ニ神戸大阪京都間ノ鐵道ノ純益ヲ計較セシニ其比例大抵五六朱ノ間ニ在リテ七朱ニ至ルハ甚タ罕ナリ蓋シ東京橫濱間ノ鐵道ハ其事創始ニ屬シ多クハ外國人ノ手ヲ藉テ成リタレハ資本隨テ多額ヲ要セリ是ヲ以テ世人ハ其外觀ノ盛大ナル爲メニ利益定メテ多カラント推想スルモ見ニ鐵道局ニ收

入スル利益ハ殊ニ少數ナリ但タ神戸大阪京都大津間ノ鐵道ハ既ニ稍ヤ工事ニ習熟セシヲ以テ其費用大ニ減少セリ故ニ其收入ハ東京橫濱間ノ鐵道ニ及ハサルモ利益ノ多少ヲ問ヘハ彼此相伯仲ス此他ハ內國人ノ爲ス所ニ出テ工ヲ省キ用ヲ節スルヲ以テ資本隨テ減少ス可キモ彼ノ關ケ原柳ヶ瀬間ノ鐵道ノ如キハ水路ニ接スルヲ以テ其工事ニハ特別ノ資本ト許多ノ歲月トヲ要セリ然ルモ尙其費用ハ前者ヨリ少額ナラントス夫レ鐵道ヲ布設スルトキハ東西相通シ遠近相接シ行人ノ往來物品ノ運輸ニ便益スル實ニ大ナリ然レトモ鐵道布設者ノ收入スル利益ハ自カラ一定ノ比例アリテ此他ニ間接ノ利益ヲ受ル無シ加之米國ノ如キハ其財本家ハ專ラカヲ鐵道ノ布設ニ用ヒ爲メニ他ノ事業ニ障礙ヲ及ホセリト云フ此一事ヲ以テ之ヲ

考フルモ鐵道ハ單ニ利益アリトノミ説ク可ラサラン今試ミニ中山道鐵道布設ノ事業ヲ按スルニ其地勢タル山川甚タ多ク之ヲ開通スルニハ必ス多費ヲ要ス可ク其落成ニ及ヒテモ乗客並ニ載貨ノ數量●東京横濱間及ヒ神戸大阪京都間ニ比シ或ハ此ヨリ減スルモ決シテ此ヨリ増ス無ル可シ然レハ則チ政府ハ費ス所甚タ多クシテ得ル所甚タ少ナカラシ本官等安ンソ此ニ憂慮セサルヲ得ンヤ蓋シ政府ハ確乎タル計算ノ在ル有テ敢テ之ヲ意ト爲ササル乎或ハ其缺少ヲ見ルトキハ國庫ヨリ補足セントスル乎強テ答辨ヲ要セサレトモ若シ幸ニ之カ説明ヲ得テ本官ノ憂慮ヲ一掃セシメハ乃チ悅ヒテ之ヲ賛成センノミ

○神輿 二十番ニ答ヘン此利子ノ豫算ハ二十番ノ言ヘル如ク
外番知常

若シ其缺少ヲ見ル有レハ政府之ヲ補足セントス抑モ此豫算タル既設鐵道ノ收益ヲ計較シ日本鐵道會社ニ特許セシ利子ノ比例ヲ參酌シテ以テ之ヲ立タリ且夫レ今回ノ公債ハ外國人ト雖モ加入シテ其證書ノ所有主タルヲ得ルニ因リ彼ヲシテ數千里外此公債ニ應セシメンニハ其利益モ之ニ相當セシメサル可ラス凡ソ資本ノ内國ニ於テ安全ナル運轉ヲ爲スニハ其利子大抵七朱ヲ以テ標準ト爲ス假令其缺少ヲ見ル有リテ政府之ヲ補足スルモ其金額ノ僅少ナル可キヲ信ス何トナレハ此公債ノ發行額ハ貳千萬圓ト定ムルモ工業ノ計度ニ應シ漸次ニ之ヲ發行シ又其價格ヲ定ムル等都テ大藏卿ノ專掌ニ係ルヲ以テ機ニ應シ宜シキヲ制ス可ケレハナリ今夫レ假ニ之カ利子ヲ六朱以下ニ定メンカ恐ラクハ人人之ヲ低利ナリトシテ加入ヲ

望マス爲メニ其影響ヲ募額ニ及ホス有ラントス是レ彼此ヲ熟圖シテ以テ計算セシ所以ナリ

○二番 細川潤次郎

本官モ敢テ異議ヲ持セス此公債ノ利子ヲ七朱ト定ムルハ高厚ナルニ似タレトモ内閣委員ノ辨明ニ依レハ自ラ其由テ然ル所ノ者アリ夫レ國家ノ經濟上ニ於テ鐵道ノ必用ナルハ論ヲ俟ス殊ニ此中山道ノ鐵道ノ如キ其公益タル少小ナラスト信スレトモ凡ソ高崎大垣間ノ路程ハ幾里ニシテ其工事ハ幾年ヲ期シ經費ハ幾許ヲ要スル目算ナリヤ且此公債證書ノ利子八年七分ニシテ其發行額ハ大藏卿時ニ臨ミ限定シ總額ヲ貳千萬圓ニ限ル者ナレハ増シテ億萬圓ニ上ル如キハ萬モ之レ無ル可シ況ンヤ人民ノ資力ニ限り有ルヲヤ此等ノ答辨ヲ得テ安心以テ賛成セント欲ス

○番 神輿知常

二番ニ答ヘン高崎大垣間ノ里程ハ大約英法一百八十「マイル」トス然ルニ是レ畧算ニシテ尙ホ之ヲ實測セハ多少ノ差ヲ生スルモ知ル可ラス而シテ竣成ノ年限ニ至リテハ資金集收ノ遲速ト工事舉行ノ難易トニ因テ自ラ伸縮スル有ル可キモ要スルニ早キハ五六年晚キモ十年ヲ出テシメサルノ計畫ナリ

○十五番 柴原和

本官ハ既ニ利子交付期月ニ係ル答辨ヲ得タリ尙ホ第五條ニ對シ質問ヲ要スル有リ本案ノ公債證書ハ前年發行セシ起業公債證書ト同一種ノ者ニシテ彼レノ發行高ハ一千二百五十萬圓ナリシ當時ヲ回顧スレハ其或ハ募集ニ應スル者ノ少數ニシテ爲メニ目的ヲ達スル能ハサルヲ慮レルカ故ニ募集ニ應スル者ハ最初ニ手附金ヲ納レシメ其以後モ第一期第二期第三期ニ派當シテ以テ順次

ニ納金セシメ又其額面百圓ノ公債證書ハ八十圓乃至八十五圓ノ價格ヲ定メテ大ニ便利ヲ與ヘ第一國立銀行及ヒ三井銀行ヲシテ之カ募集ニ從事セシメタリ當時本官ハ職ヲ地方ニ奉シ管民ヲ獎勵シテ加入セシメタルニ募集ニ應スル者意外ニ多數ニシテ速ニ豫期ノ金額ニ達セリ故ニ其後ルル者ノ如キハ遂ニ加入スル能ハサル如キノ景況ナリシ夫レ一千二百五十萬圓ノ募集額ナルモ此ノ如ク思慮ヲ費シテ始メテ成就セリ然ルニ今回ノ公債ハ其發行額更ニ多キヲ加フルニ拘ハラヌ第五條ノ明文ヲ以テスレハ額面百圓ノ公債證書ハ通貨百圓ヲ以テ發行スル者ノ如シ而シテ其但書ニ價格ヲ定メテ發行シタル場合ニ於テハ云云ト言ヘルヲ以テスレハ彼ノ起業公債ト一般ニ出シムル場合ヲ圖ルニ似タリ又其七朱ノ利子ハ外國人ニ在

テハ高厚ノ看ヲ爲ス可キモ內國人ニ在テハ寧口低薄ナリトセン然レハ則チ應募者ハ通貨八九十圓ヲ以テ之ヲ買ヒ尙ホ中籤ニ因テ偶爾券面全額ノ償還ヲ望ムナラン思フニ本案ノ公債ハ先ツ額面百圓ニ通貨百圓ヲ以テ發出シ之ニ應スル者ナキトキハ更ニ價格ヲ定ムル方法ヲ以テ募集スルカ起業公債ノ募集ト其方法ヲ異ニスル者ノ如クナレハ本官或ハ第二讀會ニ募集方法ヲ本案ニ明掲スル修正說ヲ提出センモ知ル可ラス敢テ番外ノ説明ヲ煩ハス

○神番二番知常

十五番ニ答ヘン本案ヲ布告セハ大藏省別ニ詳細ナル

募集方法ヲ告示シ以テ惑ヒ無ラシメントス是レ蓋シ本案第二條ヲ立ル所以ニシテ其募集發行等ノ事ハ都テ政府舉テ之ヲ大藏卿ニ委任シ大藏卿ハ此法律ニ據テ告示スルヲ得ルナリ例ヘハ大藏卿ハ工

事ノ計度ニ隨ヒ額面四百萬圓ノ公債證書ヲ發行シ之カ價格ヲ九十圓乃至九十五圓ト告示センニ人民ノ之ニ應スル多數ニシテ其加入額ノ需求額ニ超過スルトキハ何等ノ處分ヲ爲スコキ耶是レ即チ第五條ノ設ケ有ル所以ナリ加之第二條ニ「手續」ノ文字アルモ價額ヲ定ムルコトヲ言ハサルヲ以テ此第五條ニ附言ス然リ而モ大藏卿ハ必スシモ價額ヲ定メテ告示スル者トセス或ル場合ニ於テハ入札其他ノ方法ヲ用フル無キヲ保セス是レ第二條ニ「發行ノ手續ハ大藏卿時時之ヲ定ムルモノトス」ト言ヘル所以ナリ

○十五番柴原和 前質問ニ對スル番外ノ辨明ハ之ヲ領ス他尙ホ質問セントスルハ起業公債證書發行條例ニハ罰則ヲ設ケタルモ本案ニハ之ヲ省ケリ蓋シ其旨趣タル刑法ニ遵依セシムルノ故ヲ以テ然ル歟

又凡ソ外國人ノ此條例ニ違犯スル者モ同シク我刑法ヲ以テ處斷セントスル耶

○番神輿 本案ニ罰則ヲ設ケサルハ刑法ノ明文ニ據テ處斷セントス外國人ノ本條例ニ違犯スル者ノ如キモ普通刑法ニテ處斷スルノ意ヲ以テ我國權ノ制シ得ル限りハ之ヲ制セントスルナリ

○三十九番津田眞道 本官モ本案ヲ賛成ス各位中或ハ第四條ニ掲クル七朱ノ利子ヲ以テシテハ其募集ニ難カラント言フモ本官ハ敢テ然リトセス蓋シ未タ其價格ノ幾許ヲ以テスルヲ知ラスト雖モ假ニ之ヲ九拾圓ト定メンニ其利子ハ七分ナルモ其實際ニ得ル所ノ利潤ハ幾ント八朱ニ垂ントス是唯本案ノ公債ノミナラス日本鐵道會社ノ株券ノ如キモ政府ノ特別保護ヲ加フル有リテ必ス其株主ニ八朱ノ利

益ヲ得セシム彼此共ニ其資本金ノ總額ハ二千萬圓ニシテ得ル所ノ利潤モ亦相同シ唯其異ナルハ政府ノ之ヲ爲スト人民ノ之ヲ爲ストノ一點ノミ假令其政府ノ保護ニ間接ト直接トノ差別アルモ全國人民ニ公益ヲ與フルハ則チ一ナリ目今ノ景況タル此舉ニ賴リテ以テ資本家ヲ利シ且以テ細民窮氓ヲ益シ其極能ク外國人ノ資本ヲモ此ニ致サシメ遂ニ以テ紙幣ノ價格ヲ回復スル基礎ヲ立ントス豈是レ良政畧ト謂ハサル可ケンヤ

○三番笑作
麟祥

本官モ素ヨリ本案ヲ賛成ス然ルニ此公債ノ利子ニ關シテ某議官ノ質問シ番外二番ノ答辨セル有リ本官ハ鐵道線路ノ「マイル」ニ若干ノ計算ヲ以テ高崎ヨリ大垣マテノ總經費額ヲ二千萬圓ト定メタルヤ其詳細ヲ知ンコトヲ要ス聞ク方今日本鐵道會社ノ布

設スル鐵道線路ノ經費ハ究メテ低廉ニシテ嘗テ政府ノ布設セシ東京橫濱間ノ鐵道線路ノ殊ニ多額ヲ要シタルノ比ニ非スト然レハ則チ政府ハ彼此ヲ參酌シテ算定セシナル可シ且今二千萬圓ト豫定スルモ事ニ從ヒ實際ニ不足ヲ致ス有ルトキハ更ニ發行額ヲ増加セントスル乎或ハ國庫ヨリ補充スル乎抑モ二千萬圓ヲ以テスレハ確カニ成功ヲ期スルノ目的ナル歟併セテ之ヲ問フ

○番二番神鞭
知常

經費ノ總額ヲ二千萬圓ト豫定セシハ充分ニ信憑ス可キ計算法ニ依レリ凡ソ實費額ハ一千八百萬圓ヲ以テ成功スルノ目的ナレトモ今其二千萬圓ヲ要スルハ此公債證書額面百圓ノ價格ハ大抵九十圓ヨリ下ラサル可キヲ以テナリ此等ハ皆是レ工事ニ熟達セシ實務家ノ算定スル所ニ係ル若シ或ハ時勢ノ變遷ニ因テ多少ノ

難易ハ有ル可キモ大抵不足ヲ生スル無カル可キヲ信スルナリ

○議長 他ニ發議ナキヲ以テ本案第一讀會ハ此ニ了ル

午前第十一時閉會

本會ヲ終ル後ニ第四百二十一號議案ノ第一讀會ヲ開ケリ

午後零時五十分開場

退席 四十一番 井田 讓

○議長 第四百二十號議案ノ第二讀會ヲ開ク書記官朗讀ノ後例ニ遵

ヒ發議セヨ

書記官 森山茂 朗讀

布告案

中山道鐵道公債證書條例左ノ通制定ス

○十五番 柴原和 本會ハ内閣委員ニ答辨ヲ求ムル時機ニ非サルモノ

ノ要用ナル疑問有ルヲ以テ之ヲ質ササルヲ得ス大藏省證券條例第七條ニ「但其仕拂ハ通貨ヲ以テスルモノトス」ト言ヒ起業公債證書發

行條例第一節ノ註文ニモ「本文金額ハ總テ大藏省ノ都合ニ依リ金銀貨又ハ紙幣ヲ以テ之ヲ下渡スヘシ」ト言ヒ以テ凡ソ政府ヨリ交付シ

又ハ償還スル者ハ皆此ノ如クナルニ獨リ本案ニ其明文ヲ見サルハ或ハ正貨ヲ以テスルノ意ナリヤ既ニ午前ニ第一讀會ヲ經タル第四

百二十一號議案金札引換無記名公債證書條例第一條ニハ「其元利共銀貨ヲ以テ仕拂フモノトス」ト明記セリ本案モ果シテ正貨ヲ以テス

ルナラハ敢テ言フヲ須ヒサレトモ若シ從前ノ如ク通貨ヲ以テスル

ノ意ナランニハ其明文ヲ掲ケサルヲ得ス何トナレハ本條例ハ外國人ニモ關涉スル者ナレハ宜ク慎重ヲ加フヘケレハナリ

○番二番
神
知
常

十五番ニ答ヘン是レ仍ホ通貨ヲ以テスルノ意ニシテ時宜ニ應シ正貨或ハ紙幣ヲ以テセントス從來諸般ノ規則中往往ニ通貨ヲ以テスルコトヲ註明セシモ今ヤ元利金又ハ金高ト言ヘハ其解釋ヲ附セサルモ人皆通貨タルヲ知ルニ至レリ故ニ繁碎ヲ避ケタルノミ若シ通貨ノ文字ヲ掲クルヲ必要ナリトセハ之ヲ加フルモ不可ナル無シ

○十五番柴原和

內閣委員ノ辨明ヲ得テ之ヲ領知ス本官ノ意思ハ蓋シ內閣委員ノ答辨ノ裏面ニ在リ頃來本院ニ於テ議定上奏セル大藏省證券條例第七條ニモ通貨ヲ以テスルコトヲ言ヘルニ本案ニ之レ無

キハ若シ通貨ノ文字ヲ加ヘハ外國人ノ加入スル者寡少ナランコトヲ慮レルニ由ルヤ若クハ外國人等ノ我カ政府ヲ信スルノ厚キ斯ノ文字ノ有無ニ關セス正貨ヲ輸納シテ此公債證書ヲ請求スル有ラント認メタルニ由ルヤ果シテ後者ノ如クナレハ國家ノ理財上大ニ慶賀ス可キナレトモ或ハ之ニ反シテ外國人等故サヲニ言ヲ設テ曰ハシ他ノ條例規則ニハ悉ク通貨ト言ヘルニ獨リ本條例ニ此文字ヲ見ス余等初ヨリ日本政府ハ必ス正貨ヲ以テ交付償還ヲ爲ス者トシテ其公債ニ加入シタルニ今ニシテ通貨ヲ以テスルハ吾カ豫期スル所ニ非スト以テ強テ正貨ノ支辨ヲ請フ有ランニ我カ政府ハ其外國人ニ通貨ノ支辨ヲ承諾セシムルノ方便ヲ有スルヤ願クハ之ヲ與カリ聞カン

○外番神鞭 本員ハ論シテ未タ十五番ノ言ノ如キニ及ハサリシモ

既ニ陳辨セシ如ク此ニ通貨ノ文字ヲ掲ケサルモ政府ハ其發行スル
通貨ヲ以テ支辨スルハ當然ノ事理ナレハ別ニ解釋ヲ要セスシテ明
瞭ナリ因テ此ニ之ヲ掲ケサリシノミ請フ此意ヲ以テ本案ヲ領會セ
ンコトヲ

○議長 十五番ノ質問既ニ了リ他ニ發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン本案
ニ同意者ハ起立セヨ

起立者二十八人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山茂 朗讀

中山道鐵道公債證書條例

第一條 中山道鐵道公債證書ハ群馬縣下上野國高崎ヨリ岐阜縣下

美濃國大垣ニ至ルマテ中山道ニ沿ヒ鐵道ヲ敷設シ及ヒ其事業ヲ
經營スルノ資金ニ充ツルカ爲メ發行スルモノトス

○議長 發議ナキヲ以テ本案ニ可決シ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第二條 此公債證書發行高ハ貳千萬圓ヲ限リ大藏卿工業ノ都合ヲ
計リ漸次之ヲ發行スルコトヲ得其發行ノ手續ハ大藏卿時々之ヲ
定ムルモノトス

○議長 内閣委員ニ問フ起業公債證書發行條例ニハ通貨ノ種類ヲ記
載セシヤ

○外番神鞭 起業公債證書發行條例第一條第一節ノ末文ニ「本文金

額ハ總テ大藏省ノ都合ニ依リ金銀貨又ハ紙幣ヲ以テ之ヲ下渡スヘ
シト記註セリ是レ大藏省ノ稿定セル所ノ者ナリ

○議長 發議ナキヲ以テ本案ニ可決シ次條ニ移ル

書記官 森山 茂 朗讀

第三條 此公債證書ハ無記名利札附ニシテ千圓五百圓百圓ノ三種
トス

○議長 發議ナキヲ以テ本案ニ可決シ次條ニ移ル

書記官 森山 茂 朗讀

第四條 此公債ノ利子ハ年七分トス

○議長 發議ナキヲ以テ本案ニ可決シ次條ニ移ル

書記官 森山 茂 朗讀

第五條 此公債證書引受ノ申込高大藏卿ノ需用スル金高ヨリ超過

スルハ其超過高ニ比例シ各申込人ヘ對シ證書渡高ヲ減少スル

モノトス但價格ヲ定メテ發行シタル場合ニ於テ其價格以上ニテ

申込ム者ニハ其渡高ヲ減少セサルヘシ其價格ハ大藏卿之ヲ定ム

ルモノトス

○議長 發議ナキヲ以テ本案ニ可決シ次條ニ移ル

書記官 森山 茂 朗讀

第六條 此公債證書ノ見本ハ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

○議長 發議ナキヲ以テ本案ニ可決シ次條ニ移ル

書記官 森山 茂 朗讀

第七條 此公債證書ノ元金ハ證書發行ノ年ヨリ五ヶ年置据其翌年

ヨリ向フ二十五ケ年ヲ限り毎年抽籤法ヲ以テ償還スヘシ但償還ノ金高ハ抽籤ノ日ヨリ少クトモ六十日以前ニ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

此公債ノ利子ハ元金償還ニ至ルマテ毎年六月十二月ノ兩度ニ拂渡スモノトス但元金ヲ償還スルトキ八月割ヲ以テ右抽籤ヲ行フ月マテノ利子ヲ拂渡スヘシ
滿期ニ至リ償還ノ證書ニ属スル利子ハ償還ノ月マテノ分ヲ拂渡スモノトス

○十五番柴原和 本官ハ此第七條ニ一項ヲ加ヘント欲ス其文字ハ此公債ノ元利金額ハ總テ通貨ヲ以テ仕拂フモノトスト云フニ在リ本官前ニ謂ラク本案ニ通貨ヲ以テスルコトヲ言ハサルハ外國人ヲシテ

多ク加入セシメントスル内閣ノ用意ヲ以テ然セシ者ナリト因テ本會ノ初メニ當リ内閣委員ニ問フニ正貨ヲ支辨スル者ト認メシモ果シテ然ルヤヲ以テシタルニ内閣委員ハ否ナ通貨ヲ以テスト云ヘリ是レ獨リ他日外國人ノ紛議ヲ來スノ恐レ有ルノミナラス内國人ト雖モ疑惑スル無キ能ハサラン十一年發布ノ起業公債證書發行條例第一條第一節ノ註文ニハ「本文金額ハ總テ大藏省ノ都合ニ依リ金銀貨又ハ紙幣ヲ以テ之ヲ下渡スヘシ」ト言ヒ頃日議定上奏セシ大藏省證券條例第七條ニモ「大藏省證券ノ所持人ハ其仕拂ノ期日ニ至リ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ其仕拂ヲ請求スヘシ但其仕拂ハ通貨ヲ以テスルモノトス」ト言ヘリ共ニ是レ本案ト同シク政府ノ發行スル證書證券ニシテ異名同質ノ者ナルニ獨リ本案ノミ此事ヲ記載

セサルトキハ認メテ正貨ヲ以テスト推斷スルモ亦概シテ其理ナシト言フヲ得ス況ンヤ外國人ノ正貨ヲ欲シテ紙幣ヲ好サルヲ然ラハ則チ必ス之ヲ辭柄ト爲シ他條例ニ之レ有リテ本條例ニ之レ無キハ其正貨ヲ以テ支辨スル者ト認メタルニ今ヤ通貨ヲ以テ支辨ストモ我レ何ソ之ニ服スルヲ得ンヤト云ハハ或ハ之ニ答フルノ難キヲ知ルナリ既ニ第一讀會ヲ經過セル金札引換無記名公債證書條例第一條ニモ「金札引換無記名公債證書ハ政府發行ノ紙幣ヲ交換支消スル爲メ發行シ其元利金共銀貨ヲ以テ仕拂フモノト云ト言ヘリ本案果シテ本官ノ修正說ノ如クセハ當ニ内外國人ノ紛議疑惑ヲ斷ツノミナラス彼此對照シテ瞭然其旨趣ノ在ル所ヲ知ラシムルヲ得ントス敢テ望ム賛成者ヲ得テ問題ト爲ランコトヲ

○四十番

渡邊洪基

賛成ス通貨ヲ以テスル精神ナランニハ須ラク十五番ノ說ノ如ク分明ニ之ヲ掲クヘキナリ

○三十二番

三浦安

頃者議定上奏セシ大藏省證券條例ニモ通貨ヲ以テ支辨スルコトヲ記載シ又見ニ第四百二十一號議案ニモ銀貨ヲ以テ支辨スルコトヲ記載セントス彼此ヲ比照スルニ必ス其之レ無ル可ラサルヲ知ル況ンヤ之レ無ケレハ他日外國人ノ苦情ヲ訴フル時ニ際シテ之ヲ防クニ困シム有ラントスルヲヤ因テ十五番ノ修正說ヲ賛成ス

○三番

箕作麟祥

本官モ亦之ヲ賛成ス蓋シ其理由ノ未タ發議者ノ言ヲ經サル者アレハ本官之ヲ補陳セン抑モ本案ハ外國人ニシテ此公債證書ヲ欲スル者ハ其資本ヲ致シテ以テ之カ所有主タルヲ得セシム然

ルモ其實ヲ問ヘハ外國人ハ權利者ニシテ我カ政府ハ義務者ナリ若シ其間ニ紛議ノ生スル有ルモ彼レ素ヨリ治外法權ヲ持シ我カ法律ニ服従スル者ニ非サレハ彼ヲ被告トシテ其領事タル裁判官ニ告訴スルヲ例トス若シ其裁判ヲ不當ナリトセハ又其上等裁判所ニ控訴セサルヲ得ス見ニ英國人ニ對スル訴訟ノ如キハ其上海ニ在ル上等裁判所ニ控訴スルコトヲ要ス故ニ外國ヨリ貨幣ヲ輸送セシメ我カ公債證書ノ所有主タルヲ許スハ甚タ利ナレトモ若シ一朝紛議ノ生スル有レハ其關係極メテ重大ナリトス蓋シ其事端ノ那邊ニ生スルヤハ豫メ言ヲ爲シ難キモ假ニ一事ヲ設ケテ之ヲ言ハンニ例ヘハ外國人ニ不良ノ徒アリテ此公債證書ヲ造變シ若クハ贋造センニ是レ素ヨリ我カ國法ヲ以テ罰ス可キニ非ス必ス之ヲ彼ノ裁判ニ委ス爾

時偶マ本條例ニ對シテ彼我其見解ヲ異ニシ我ハ通貨ナリト言ヒ彼ハ金銀ノ正貨ナリト言ハハ忽チ一場ノ紛議ヲ生セン然ルヲ十五番ノ修正ノ如クセハ禍根ヲ未萌ニ斷滅シ彼我平和ヲ全ウセントス内國人ノ國法ニ遵フ者ト外國人ノ治外ニ屬スル者トハ大ニ其事情ヲ異ニシ一旦訴件ノ起ル有ルヤ彼レ其法律ニ明達スル人ヲ選ミ我ト論戰ヲ開カントスレハ制法ノ初メニ於テ慎密ニ之カ注意ヲ取ラサル可ラス

○十一番 榎村 正直 賛成

○十九番 土杉 茂憲 賛成ス既ニ此鐵道ヲ布設スルノ必要ナルヲ知り隨テ

外國人ノ資金ヲ募集スルノ便宜ナルヲ知ル然レトモ唯其恐ル可キコトハ他時彼我ノ間ニ紛議ノ生スル有ランコトヲ宜ク十五番ノ修

正ノ如クシテ内外人ノ疑惑ヲ絶ツヘキナリ

○議長 十五番ノ修正説ハ多數ノ賛成者アリ問題ト爲ス

○八番伊丹重賢 賛成ス本官初メ謂ラク本案ニ通貨ヲ以テ支辨スルコト

ヲ記載セサルハ内閣別ニ深意ノ在ル有ラント然ルニ内閣委員ノ言

ニ依レハ敢テ然ラサル者ノ如シ各位モ論述セル如ク外國人ハ我カ

法律ニ服従スル者ニ非ラサレハ動モスレハ異議ヲ唱ヘントス況ン

ヤ今日紙幣ト正貨トノ價格ニ間差ヲ生セルヲヤ問題説甚タ可ナリ

○二十番大鳥圭介 賛成

○議長 内閣委員ニ問フ此公債ノ償消期限ハ三十年ニ互レリ知ラス

其子母金ノ支辨ニ通貨ヲ用フルモ亦三十年ニ至ラシムルカ十五番

○神輿知常 外二番 政府ノ旨意ハ專ラ通貨タル紙幣ヲ減少セントスルニ

在レハ必ス三十年ノ後ニ至ルマテ今日ノ通貨ヲ使用スル無カル可

シ蓋シ方今我國ノ貨幣制度ハ金貨銀貨紙幣ノ三種並行シ紙幣最モ

其價格ノ低下セルモ一概ニ無用視ス可ラス將來ノ長計ハ内閣自ラ

應サニ畫算ノ在ル有ルヘキモ三十年後ニハ決シテ紙幣ヲ存セスト

ハ謂フヲ得ス或ハ其性質ノ兌換ニ變シ正貨ト品位ヲ同ウセハ敢テ

人民ノ好マサル無ラン故ニ今日ニ於テ其如何ヲ豫言ス可ラサルナ

リ

○議長 發議盡キタルヲ以テ決ヲ取ラン十五番ノ修正説ニ同意者ハ

起立セヨ

起立者二十一人

○議長 多數ナルヲ以テ十五番ノ修正説ニ決ス

書記官 森山茂 朗讀

第八條 此公債ノ利子ハ其元金拂込ノ日ニ從ヒ各月十五日前後ヲ以テ區別シ十五日以前ナレハ其下半月分ヨリ十六日以後ナレハ其翌月分ヨリ拂渡スモノトス

○議長 發議ナキヲ以テ本案ニ可決シ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第九條 此公債ノ元金償還利子拂渡ノ事務ハ總テ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ其時期及ヒ場所等ハ抽籤ノ日ヨリ少クトモ三十日以前ニ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

○議長 發議ナキヲ以テ本案ニ可決シ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第十條 此公債ノ利子ハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ利札ヲ切取り之ト引換ニ拂渡スヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本案ニ可決シ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第十一條 此公債證書ハ何人ニテモ授受賣買スルコトヲ得

○議長 發議ナキヲ以テ本案ニ可決シ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第十二條 此公債ノ元金償還ノトキハ日本銀行ニ於テ抽籤配賦計算ノ割合ヲ定メ東京横濱居住人ニテ此公債證書ヲ多額所持スルモノ拾名以上并大藏省國債記録兩局ノ官員五名以上立會ノ上抽籤ヲ執行シ其當籤證書ノ記號番號種類金高等ハ大藏卿ヨリ告示

スルモノトス

○議長 發議ナキヲ以テ本案ニ可決シ次條ニ移ル

書記官 森山 朗讀

第十三條 此公債證書ノ所有者其證書又ハ利札ヲ亡失セシトキハ
其事由并證書面ノ金高記號番號及所有セシトキノ手續ヲ詳記シ
其亡失セシ地ノ官廳ヲ經テ大藏省ニ届出ツヘシ大藏卿ハ其證書
ノ授受賣買ヲ差止ムヘキ旨ヲ告示スルモノトス但發見シタルト
キハ同様ノ手續ヲ以テ届出ツヘシ

○亡失ノ證書ヲ發見セス其償還年限ノ末期ニ至リ證書消滅セシト
認ムヘキ場合ニ於テハ該證書ノ元利金額ヲ其届出人ヘ拂渡スヘ

○二番 細川潤次郎

本官ハ終始沈黙セント欲セシモ獨リ本條ニ對シテハ

然ル能ハス本條ニ「此公債證書ノ所有者其證書又ハ利札云云」ト言
ヘルハ本ト是レ第十條ニ「此公債ノ利子ハ日本銀行本支店又ハ代理
店ニ於テ利札ヲ切取り之ト引換ニ拂渡スヘシ」ト言ヘル者ニシテ彼
ノ金祿公債證書ノ如ク利子交付ノ時ニ於テ所有者利札ヲ切取りテ
以テ呈出スル者ニ非ス證書ト共ニ携帯シテ日本銀行ノ本支店又ハ
代理店ニ到レハ銀行者利札ヲ切取り之レト交換シテ利子ヲ交付ス
ル者ナレハ利札ト證書トハ常ニ相離レサル者ナリ然ルヲ本條ノ如
クスルトキハ所有者利札ヲ切取ル如キノ看ヲ爲シ以テ第十條ト矛
盾スル無キ能ハス既ニ第十條ノ意義ヲ以テスレハ何ソ利札ノミヲ
亡失スルコト有ランヤ是レ此文字ノ有リテ功用ヲ見ス無クシテ却

テ明瞭ヲ致スカ故ニ斷シテ「又ハ利札」ノ四字ヲ削除セント欲ス加之本條ノ末項ニ「大藏卿ハ其證書ノ授受賣買ヲ差止ムヘキ旨ヲ告示スル者トス但發見シタルトキハ同様ノ手續ヲ以テ届出ツヘシ」ト言ヘリ若シ前文ノ例ニ依レハ大藏卿ハ其證書又ハ利札ヲ云云ト爲ササレバ首尾完全ナルヲ得ス第二項ニ於ルモ亦然リ畢竟蛇足ニ屬スル文字ナルノミ

○三十一番 林友幸 賛成ス利札ハ證書ニ附著セル者ナレハ分別シテ之ヲ言フコトヲ要セス

○三番 箕作麟祥 賛成ス發議者ノ陳述セル如ク此證書ハ利札ト分別セル者ニ非ス第十條ノ明文ノ如ク日本銀行ノ本支店又ハ代理店ニ於テ利札ヲ切取り之レト交換シテ利子ヲ交付スル者ナレハ證書ヲ外ニ

シテ獨リ利札ノミヲ亡失スルコト無シ況ンヤ本條ニ此文字ヲ掲ケハ後條モ亦之レト同ウシテ前後照應セシメサル可ラサルヲヤ彼此ヲ較考スルニ之レ無キヲ優レリトス

○議長 二番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○二十番 大鳥圭介 二番ノ修正ハ甚タ善シ本官ハ注意未タ此點ニ至ラサリシナリ此公債證書ハ本ト是レ無記名ノ者ナレハ利子ヲ交付スル時ニ於テ混雜ヲ致ス無ラシメン爲メニ故サラニ第十條ノ明文ヲ掲ケタルヲ知ル要スルニ是レ利子ヲ交付スル時ニ於テ利札ヲ切取ル者ナレハ本條ニハ利札ノ文字ヲ加フルヲ要セス

○四十番 渡邊洪基 本官ハ問題說ニ同意セス若シ本條ト第十條トノ撞著スル有ラハ第三讀會ニ修正ヲ加ヘテ可ナリ本條ハ特ニ利札ト證書

トヲ分別セル時ノコトヲ言フナリ既ニ之ヲ利札ト謂ヘハ假令利札ヲ切取リテ利子ノ交付ヲ求ムルモ妨ケ無カル可ク而シテ日本銀行ニ於テ其利札ノ割引ヲ爲ス等ハ猶ホ歐米各國ノ銀行ノコトクナラシキ要スルニ公債證書ノ利札ハ切取リテ授受スルヲ便利ナリトス或ハ之ヲ抵當ニ充ルニハ利子交付ノ期限ヲ計リ委任狀ヲ之ニ添フル等ノ例ハ少ナキニ非サル可シ若シ證書ト利札トヲ分別スル能ハスシハ豈能ク是等ノ便利ヲ受ルヲ得ンヤ故ニ二番ノ第一說ナル「又ハ利札」ノ四字ヲ削除スル修正ヨリハ寧ロ本案ヲ可ナリトス其第二說ニ係ル「大藏卿ハ其證書ノ授受云云」ノ證書ノ下及ヒ第二項ノ「亡失ノ證書云云」ノ證書ノ下ニハ共ニ「又ハ利札」ノ四字ヲ加フ可キ者ナリト言ヘルハ眞ニ是ナリ然レトモ此二所ニ之レ無キカ爲メニ前文

ヲ併セテ削除セントスルハ本官其意ヲ解スル能ハス因テ問題說消滅セハ前文ハ本案ノ如クシ末文ヲ大藏卿ハ其證書又ハ利札ノ授受云云ト爲シ第二項モ亡失ノ證書又ハ利札ヲ發見セス云云トスルノ修正說ヲ提出スル有ル可シ

○二十番 大鳥圭介 敢テ内閣委員ニ問フ此公債證書ノ利札ハ所有者自ラ切取リテ呈出スル者ナリヤ或ハ日本銀行ノ本支店又ハ代理店ニ於テ切取ル者ナリヤ明カニ其旨趣ヲ質シ以テ四十番ノ動議ノ去就ヲ決セントス

○外二番 神輿知常 二十番ノ質問ニ答ヘン第十條ハ其文面ニ見ル如ク利子ヲ交付スルニハ日本銀行ノ本支店又ハ代理店ニ於テ利札ヲ切取リ利子ト利札トヲ交換スルナリ若シ記名證書ナランニハ利子交付

ノ期前ニ授受賣買ヲ停ムルヲ以テ明カニ其所有者ヲ知ルト雖モ無記名證書ハ然ラス何人ノ賣買シ何所ニ授受セシヤハ詳カニ之ヲ知ル可ラス是レ特ニ證書ノ確認ヲ要スル所以ナリ只今幸ニ此ニ金札引換公債證書ノ様本ヲ携帶スルヲ以テ之ヲ各位ノ一覽ニ供セン蓋シ此ノ如キ簡便ナル者ニシテ容易ニ贋造スルヲ得ヘケレハ第十五條ノ明文ヲ以テ其檢査ノ順序ヲ嚴密ニシ奸徒猾漢ヲシテ隙ヲ窺フ無ラシメンコトヲ期セリ殊ニ外國人ハ內國人ヨリモ判形文彩ヲ模擬スルニ巧ミナレハ深ク注意セサル可ラス畢竟第十條ハ詐偽ヲ防制スル方策ナレハ其利子交付ノ時ニ於テ證書ノ全面ヲ査閲セシ後利札ヲ切取リテ之ヲ利子ニ交換スル者ト爲セリ要スルニ無記名證書ハ賣買ニ便ナレトモ利子ノ授受ニハ較ヤ煩ナルヲ免レス又凡ソ

外國人ニ對スル措置ハ往往外國人ト外國人トニ關涉スル者ナレハ例スルニ英國人ノ其身日本ニ在テ彼地ノ代理人ニ託シ利子ヲ領收セシムルモ或ハ其身倫敦ニ在テ此地ノ代理人ニ託シ利子ヲ領收セシムルモ固ヨリ各自ノ隨意ナレハ毫モ障碍ヲ見ス此無記名證書ハ多ク外國ニ行ハレ現ニ我國ニ於テモ既ニ發行スル所ノ者タリ記名證書ノ利札ハ四十番モ言フ如ク抵當割引ニ用ユルモ無記名證書ハ利子授受ノ煩ナルト稍ヤ危險ヲ覺ユルヲ以テ記名證書ノ利子ヲ授受スル如クスルコトヲ得サルナリ

- 二十番 大鳥圭介 領解ス果シテ內閣委員ノ辨明ノ如クハ證書ト利札トハ相離ル可ラス愈ヨニ番ノ修正說ヲ是認ス
- 三十二番 三浦安 二番ノ削除說ヲ可トス然ラサレハ第十條ノ全文ハ

分明ヲ缺ントス

○二十九番 渡邊清 本官モ問題說ヲ賛成ス元來無記名公債證書ハ簡便ナリト雖モ何人ニテモ授受スルコトヲ得ルヲ以テ頗ル危険ノ虞アルヲ免レス此虞ヲ防制スルハ第十條最モ効力ヲ有ス蓋シ其流用ニ便ナラシヨリハ寧ロ危険ノ虞ナキヲ得タリトス

○四十番 渡邊洪基 本條ニ對シテハ各位ノ論說シ及ヒ内閣委員ノ辨明スル有ルモ本官ハ仍ホ原案ノ可ナルヲ信ス蓋シ證書ト利札トハ連同セルモ自ラ別異ナル者ニシテ例ヘハ證書ヲ亡失セルモ利札ヲ存シ又ハ利札ヲ亡失セルモ證書ヲ存スル場合ノ在ル有リ然ルヲ第十條ニ利札ヲ切取り之ト引換ニ拂渡スヘシト言ルヲ以テ幾ント證書ノ一部分トモ謂フ可キ利札ヲ本條ヨリ削除シ其之ヲ亡失スルモ大

藏卿ノ本證書ノ授受賣買ヲ停止スル限リニ非スト爲サントスルハ誤レリト謂フ可シ本條ニ證書ト利札トヲ併記セシハ其關係ノ密著セルヲ知ラシメタルナリ且夫レ外國ニ於テハ此利札ノミヲ授受スルヲ慣例ト爲ス我國ニ於テモ記名證書ハ唯其利札ノミヲ授受スルナラスヤ本官ノ相知ル一人ハ現ニ金札引換公債證書ノ利札ノミヲ以テ利子ヲ領收シタルコト有リ本官固ヨリ利子ヲ領收スルニハ利札ヲ以テセシムルヲ可ト爲スモ原案ノ旨意然ラスト言ハハ第十條ハ贋造ヲ防制スル爲メニ之ヲ存シ而シテ本條ハ必ス原案ノ如クナラシコトヲ要ス

○議長 討議盡キタリト認ムルヲ以テ決ヲ取シ二番ノ修正說ニ同意者ハ起立セヨ

起立者二十五人

○議長 多數ナルヲ以テ二番ノ修正説ニ決ス

書記官 森山茂 朗讀

第十四條 此公債證書當籤ト爲リ元金拂渡スヘキ場合ニ於テ其證書ノ亡失セシコトヲ覺知シタルトキハ其當籤ノ効ヲ失フモノト

ス

○議長 發議ナキヲ以テ本案ニ可決シ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第十五條 此公債證書汚染又ハ毀損セシトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經テ證書ノ引換ヲ大藏省ヘ請求スヘシ但其證書面金高記號番號及大藏卿ノ印章ヲ檢査シ其真正ナルヲ證認シ得ヘキ

モノニアラサレハ引換サルヘシ此引換ヲ得タルモノハ本人ヨリ相當ノ手数料ヲ銀行ヘ拂フヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本案ニ可決シ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第十六條 此公債證書引換又ハ償還ノトキ其證書汚染毀損シ金高記號番號及大藏卿ノ印章ヲ認メ難キモノハ其元利金トモ償還方總テ亡失證書ト同一タルヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本案ニ可決シ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第十七條 此公債ノ元利金受取方申出テス其拂期月ヨリ滿十五ケ年ヲ過ルトキハ一切之ヲ償還セサルヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本案ニ可決シ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第十八條 政府ノ都合ニ依リ要用ノ事アレハ利子ノ割合及元金償還年限ヲ除クノ外此條例ヲ増補改正スルコトアルヘシ
右奉 勅旨布告候事

○議長 發議ナキヲ以テ本案ニ可決シ此ニ本案第二讀會ヲ畢リ將サニ第三讀會ヲ開カントス然ルニ第二讀會ニ於テ修正ノ成立セシハ第七條ニ一項ヲ加ヘタルト第十三條ニ「又ハ利札」ノ四字ヲ削除セルトノ二者ニ過ス本案素ヨリ急決ヲ要スルヲ以テ便宜ニ從ヒ先ツ布告案ヨリ第六條マテヲ議題ニ付ス各位若シ發議スル無ンハ之ヲ可決ト認メ次ニ第七條ヨリ第十七條マテニ及ハン

○四番 野村素介 敢テ修正說ヲ提出ストハ云ハサルモ第七條ニ「此公債證

書ノ元金ハ證書發行ノ年ヨリ五ヶ年置据云云」ト言ヘル置据ノ文字ハ或ハ誤刷ニ出ル無キヲ得ンヤ十三年第四十七號布告金札引換公債證書發行條例ニハ都テ「据置」ト言ヘリ其用處ヲ同ウシテ此ノ如ク倒換ス可キノ理ナシ試ニ内閣委員ニ質シ或ハ之ヲ改置セント欲ス

○議長 現問題ハ未ダ第七條ニ及ハサルヲ以テ四番ハ其朗讀ノ後ニ發議セハ可ナラン

○議長 他ニ發議ナキヲ以テ本案ニ可決シ第七條ニ移ル
書記官 森山茂 朗讀

第七條 此公債證書ノ元金ハ證書發行ノ年ヨリ五ヶ年置据其翌年

ヨリ向フ二十五ヶ年ヲ限り毎年抽籤法ヲ以テ償還スヘシ但償還ノ金高ハ抽籤ノ日ヨリ少クトモ六十日以前ニ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

此公債ノ利子ハ元金償還ニ至ルマテ毎年六月十二月ノ兩度ニ拂渡スモノトス但元金ヲ償還スルトキ八月割ヲ以テ右抽籤ヲ行フ月マテノ利子ヲ拂渡スヘシ
滿期ニ至リ償還ノ證書ニ屬スル利子ハ償還ノ月マテノ分ヲ拂渡スモノトス

此公債ノ元利金額ハ總テ通貨ヲ以テ仕拂フモノトス
○議長 内閣委員ニ問フ金札引換公債證書條例ニハ据置ト言ヘルニ本條ニ据置ト爲セシハ別ニ理由アリテ然リヤ

○外二番 神知 神常 知常 据置ト云フモ置据ト云フモ意義ニ異ナル無シ然レハ

其孰レニ決スルモ敢テ抗辨セス

○四番 野村 素介 別ニ理由アルニ非サレハ願クハ之ヲ据置トシ法文ノ體格ヲ一ナラシメン

○三番 箕作 麟祥 現行法ニ遵依スルヲ善シトス四番ヲ賛成ス

○三十九番 津田 眞道 是レ瑣瑣タル文字上ノコトナルモ慣習既ニ据置ト云ヘハ宜ク現行法ノ文例ニ沿ルヘシ

○三十一番 林友 幸 賛成

○四十番 渡邊 洪基 賛成

○八番 伊丹 重賢 賛成

○議長 四番ノ修正說ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○議長 他ニ發議ナキヲ以テ決ヲ取シ四番ノ修正說ニ同意者ハ起立

セヨ

起立者十六人

○議長 多數ナルヲ以テ四番ノ修正說ニ決ス乃チ第八條ヨリ第十二條マテヲ議題ト爲ス

○議長 發議ナキヲ以テ本案ニ可決シ第十三條ニ移ル

書記官 森山 朗讀

第十三條 此公債證書ノ所有者其證書又ハ利札ヲ亡失セシトキハ其事由并證書面ノ金高記號番號及所有セシトキノ手續ヲ詳記シ其亡失セシ地ノ官廳ヲ經テ大藏省ニ届出ツヘシ大藏卿ハ其證書ノ授受賣買ヲ差止ムヘキ旨ヲ告示スルモノトス但發見シタルト

キハ同様ノ手續ヲ以テ届出ツヘシ

亡失ノ證書ヲ發見セス其償還年限ノ末期ニ至リ證書消滅セシト認ムヘキ場合ニ於テハ該證書ノ元利金額ヲ其届出人へ拂渡スヘシ

○四十番 渡邊 洪基 本官ハ前會ニ於テ本條ノ「又ハ利札」ノ四字ヲ削除ス

ルノ不可ナルヲ辨セリ故ニ本會ニ於ルモ依然前說ヲ持シ以テ此四字ヲ回復セントス抑モ證書ト利札トハ相離レサル者ニシテ證書ヲ亡失スレハ利札モ亦亡失スト爲スハ是レ一偏ノ見ナリ世間ノ慣習ヲ觀レハ多クハ別異ナル者ノ看ヲ爲シ外國ニ於テモ亦然セリ故ニ原案ニハ證書ト利札ト共ニ亡失セシトキハ届出ヲ爲ス者ト定メタリ然ルヲ單ニ證書ノミ其亡失ノ届出ヲ爲セハ利札ハ自ラ其中ニ含

有スト爲シ以テ利札ノ功用ヲ埋没ニ付セントスルハ穩當ノ修正ナ
リト謂フコトヲ得ス法文ハ務メテ公衆ノ知悉スル爲メニ明備ナラ
シムルヲ要ス必ス原案ノ如クナラサル可ラス

○議長 四十番ノ修正説ハ賛成者ナキヲ以テ消滅ス

○議長 發議ナキヲ以テ本案ニ可決シ第十四條ヨリ末條マテヲ以テ
議題ト爲ス

○四十三番 田邊 太一 第十六條ニ對シ質問セントス

○議長 質問セントセハ宜ク第一讀會ニ於テ爲スヘキナリ今ヤ格別
ノ事由アルニ非サルヨリハ之ヲ爲スノ時機ニ非ス

○四十三番 田邊 太一 質問ト云ヒシハ失言ナリ第十六條ニ「此公債證書引
換云云」ト言ヘルモ其引換ノコトハ既ニ第十五條ニ記載セル有リテ

此條ハ唯其償還ノ場合ニ當リ汚染毀損シ金高記號番號及ヒ大藏卿
ノ印章ヲ明認シ難キ時ノ措置ナレハ是恰モ第十四條ニ似タリ故ニ
引換又ハノ四字ヲ削除セント欲ス

○三十九番 津田 眞道 第十六條ノ「引換又ハ」ノ文字要用ヲ見ス削除スル
可ナリ四十三番ノ説ヲ賛成ス

○三十六番 神田 孝平 賛成

○二十九番 渡邊 清 賛成

○三番 箕作 麟祥 第三讀會ニ於テ質問ヲ爲ス可キニ非ラサルモ此第十六
條ニ關シテハ條緒頗ル錯雜ス思フニ原案ノ旨意ハ發議者ノ見解ト
異ナラン内閣委員ノ一回之ヲ辨明スル有ラハ自ラ釋然タル可シ

○外二番 神輿 知常 第十六條ノ「引換又ハ」ノ文字ハ殊ニ要用ノ旨意ヲ含

蓄ス抑モ第十五條ニ引換ノ文字アルモ是唯引換サルヘシト言フニ止メタレハ未タ以テ其證書ノ汚染毀損シ金高記號番號大藏卿ノ印章ノ明認シ難キ者ノ處分法ヲ示ス有ラス故ニ本條ニ於テ引換又ハ償還ノ時ニ於テ此事アルヲ發見セハ其元利金ノ償還方法ハ總テ亡失證書ト同シカル可キコトヲ明示シ是ニ於テ第十六條ノ結末始メテ完了ス

○四十三番 田邊太一

本官ハ内閣委員ノ辨明ヲ聞キ愈ヨ第十六條ノ引換又ハフ文字ノ要用ナキヲ知ル既ニ第十五條ニ其真正ナルコトヲ證認シ得ル者ニ非サレハ引換サルコトヲ明示セリ然ルニ第十六條ハ證書ト元利金トヲ引換フル場合ニ係レハ却テ其之レ無キヲ得タリトス

○二十九番 渡邊清

引換又ハフ文字ハ到底其要用ナキヲ信ス四十三番ノ說ノ如ク第十五條ニ於テ其引換フ可キ者ヲ類舉セルナレハ其真正ナル者ハ引換フ可キハ論ヲ俟タス然レトモ其引換フ可ラサル者ハ引換ヲ求ムルニ由ナク唯其償還ヲ得ルノミニ止マル何ソ此ノ如キ衍字ヲ存スルヲ要セン

○議長 四十三番ノ修正說ハ定數ノ賛成者ヲ得サルヲ以テ成立セス
○議長 他ニ發議ナキヲ以テ本案末條ニ至ルマテヲ可決ト爲ス因テ第四百二十號議案ノ第三讀會ハ此ニ畢ル然ルニ其修正ヲ加ヘタルハ極メテ僅僅ナレハ各位ノ發言スル無クハ別ニ確決會ヲ開クヲ要セサル者ト認メン

○議長 發言ナキヲ以テ本案ヲ確定ト爲シ例ニ遵ヒ上奏セン

午後第二時十八分閉會

是ヨリ第四百二十一號議案ノ第二讀會ヲ開ケリ

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the number 421.]

元老院會議筆記 明治十六年十二月二十六日

禁傍聽

○第四百二十一號議案 金札引換無記名公債 第一讀會 第四百二十一號議案第一

讀會畢ル 第二第三讀會 第四百二十號議案第

後開場 議長 佐野常民

出席議員

- 二番 細川潤次郎
- 三番 箕作 麟祥
- 四番 野村 素介
- 七番 鍋島 直彬
- 八番 伊丹 重賢
- 九番 東久世通禧